

大網白里市  
男女共同参画に関する市民意識調査の  
結果について

平成27年9月

# 目次

I	調査概要	2
II	結果詳細	
	1. 属性情報	4
	2. 回答結果	
	【男女平等に関する意識について】	6
	【男女の役割分担について】	8
	【仕事について】	17
	【女性の社会参加について】	29
	【男女共同参画用語について】	40
	【ドメスティック・バイオレンスについて】	42
	【ストーカー行為について】	50
	【少子化対策について】	54
	【男女共同参画社会実現に向けての取組みについて】	59
III	調査票	70

## **I 調査概要**

### **1. 調査目的**

男女共同参画計画策定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や生活実態などを総合的に把握し、計画策定に反映させるための基礎資料を得ることを目的とする。

### **2. 調査時期**

平成27年6月22日～7月17日

### **3. 調査対象**

大網白里市民かつ平成27年5月1日現在、20歳以上の男女1,500名

### **4. 調査方法**

郵送による送付・回収

### **5. 調査回収数**

529通（回収率35.3%）

### **6. 結果の表記における注意事項**

アンケート結果について、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とまらない場合がある。

## 7. 標本誤差について

市民意識調査は標本調査であり、一定の範囲で誤差が含まれる可能性がある。それは下記の式によって与えられる。(信頼度95%)

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p \times (1-p)}{n}}$$

(1.96は信頼区間、N=母集団、n=標本数、p=母比率)

※pは0.5のとき最大となるので、以下の計算では0.5とする。

大網白里市男女共同参画計画に関する市民意識調査の誤差率は、次のとおり4.2%であり、誤差率の基準である5%未満となっている。

$$N = 42,328, n = 529$$

【市民意識調査の誤差率計算】

N = 42,328 (平成27年5月1日現在20歳以上の人口数)

n = 529 (抽出サンプル数1,500、回収率35.3%)

$$\sqrt{\frac{41799}{42327} \times \frac{0.25}{529}}$$

$$1.96 \times 0.0216 = \boxed{4.2\%} \quad \text{誤差率}$$

計算結果 = 4.2% (誤差率の基準5%未満)

## II 結果詳細

### 1. 属性情報

回答者の属性情報は以下のとおり。

属性項目		件数	構成比 (%)
性別	男性	227	42.9
	女性	276	52.2
	無回答	26	4.9
	合計	529	100.0

年代	20歳代	44	8.3
	30歳代	85	16.1
	40歳代	75	14.2
	50歳代	88	16.6
	60歳代	128	24.2
	70歳代以上	103	19.5
	無回答	6	1.1
	合計	529	100.0

居住地区	瑞穂地区	113	21.4
	山辺地区	107	20.2
	大網地区	112	21.2
	増穂地区	104	19.7
	白里地区	88	16.6
	無回答	5	0.9
	合計	529	100.0

属性項目		件数	構成比 (%)
世帯構成	単身	31	5.9
	夫婦のみ	150	28.4
	2世代家族（子供と）	194	36.7
	2世代家族（親と）	84	15.9
	3世代家族	47	8.9
	その他	9	1.7
	無回答	14	2.6
	合計	529	100.0

職業	会社員・役員	112	21.2
	自営業・自由業	35	6.6
	パート・アルバイト	68	12.9
	公務員・教職員・団体職員	34	6.4
	農林水産業	15	2.8
	学生	11	2.1
	家事専業（主婦・主夫）	103	19.5
	無職	112	21.2
	その他	12	2.3
	無回答	27	5.1
合計	529	100.0	

属性別の分析については、性別・年齢別・地区別を基本とする。  
地区については、地域特性を踏まえ、下記のとおり5つの地区へまとめている。

①瑞穂地区	永田、小中、萱野、砂田、神房、経田、駒込、ながた野、みずほ台、みやこ野
②山辺地区	金谷郷、餅木、大竹、南玉、池田、季美の森南
③大網地区	大網、仏島、みどりが丘、小西、養安寺、山口
④増穂地区	富田、南横川、北横川、北飯塚、南飯塚、星谷、柿餅、柳橋、上貝塚、清名幸谷、木崎、柿餅上貝塚入会地、上谷新田
⑤白里地区	南今泉、北今泉、細草、四天木、四天木甲、四天木乙、北吉田、桂山、九十根、長国、下ヶ傍示、二之袋、清水

また、各属性の詳細は以下の通りである。

(単位：%)

		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	瑞穂地区	山辺地区	大網地区	増穂地区	白里地区
性別	男性	45.1	—	8.8	14.5	10.6	16.3	27.3	22.5	22.6	19.9	20.4	19.5	17.7
	女性	—	54.9	8.7	18.5	18.1	17.8	22.1	14.9	20.3	21.0	22.1	20.3	16.3
年齢別	20歳代	45.5	54.5		—	—	—	—	—	22.7	13.6	29.5	20.5	13.6
	30歳代	39.3	60.7	—		—	—	—	—	18.8	18.8	21.2	24.7	16.5
	40歳代	32.4	67.6	—	—		—	—	—	15.9	21.6	20.3	18.9	20.3
	50歳代	43.0	57.0	—	—	—		—	—	22.7	26.1	18.2	19.3	13.6
	60歳代	50.4	49.6	—	—	—	—		—	20.3	20.3	23.4	17.2	18.8
	70歳以上	55.4	44.6	—	—	—	—	—		25.2	19.4	19.4	20.4	15.5
地区別	瑞穂地区	47.7	52.3	8.5	14.3	12.5	17.9	23.2	23.2		—	—	—	—
	山辺地区	43.7	56.3	5.6	15.0	15.0	21.5	24.3	18.7	—		—	—	—
	大網地区	43.0	57.0	11.6	16.1	13.4	14.3	26.8	17.9	—	—		—	—
	増穂地区	44.0	56.0	8.7	20.2	13.5	16.3	21.2	20.2	—	—	—		—
	白里地区	47.1	52.9	6.9	16.1	17.2	13.8	27.6	18.4	—	—	—	—	

(注) 未回答は数に含めていない

## 2. 回答結果

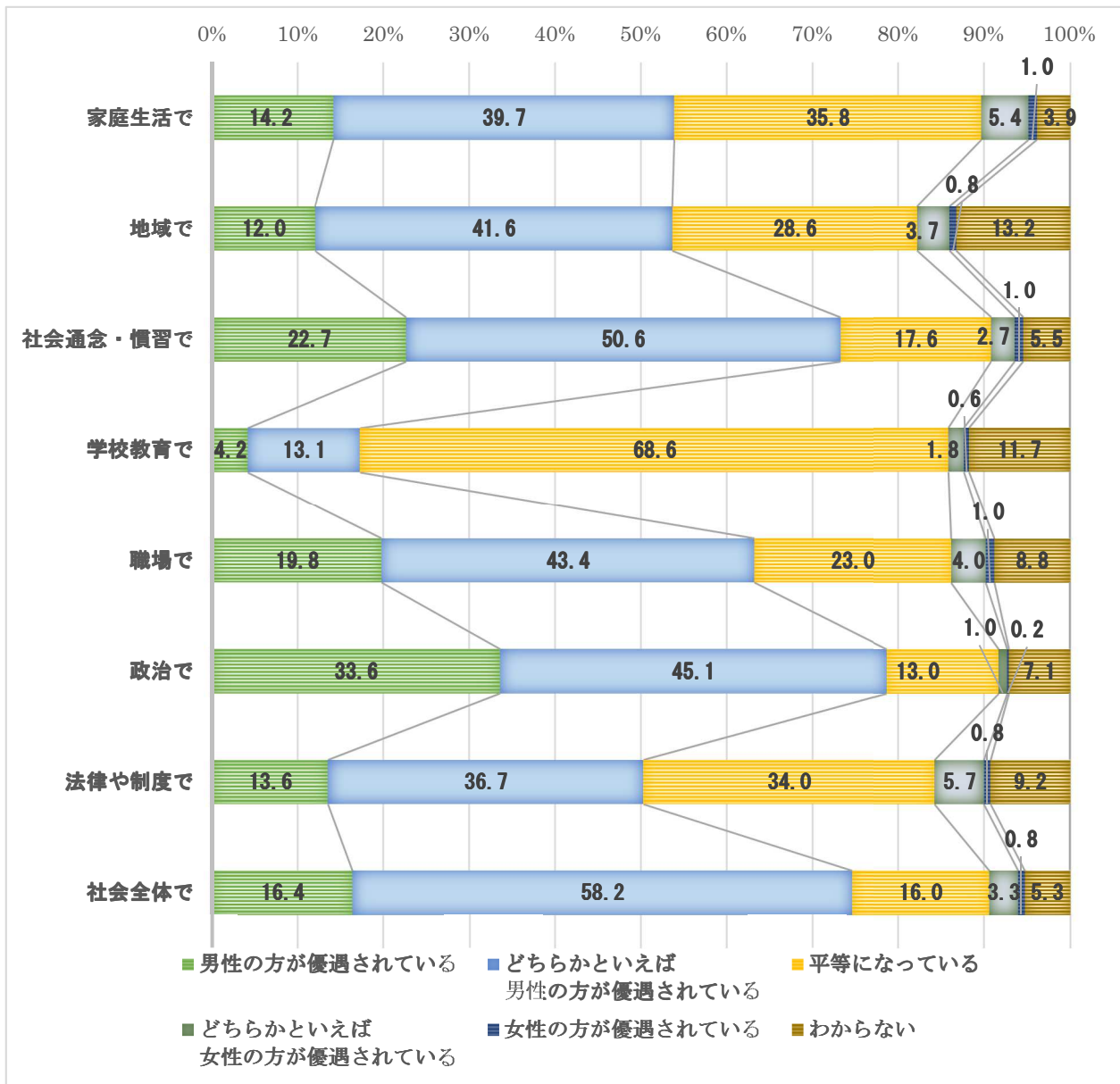
### 【男女平等に関する意識について】

問1 現在の社会において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。

#### 【全体】

「学校教育で」において「平等になっている (68.6%)」が高くなっているほかは、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の方が高く、特に「政治で (78.7%)」、「社会全体で (74.6%)」、「社会通念・慣習で (73.3%)」で高くなっている。

図表1 男女の地位について



## 【『男性優遇』と『女性優遇』の差異】

『男性優遇』と『女性優遇』の差異（『男性優遇』－『女性優遇』の値）をみると、「政治で（77.5ポイント）」が最も高く、次いで「社会全体で（70.6ポイント）」、「社会通念・慣習で（69.6ポイント）」となっている。

性別でみると、全ての項目で「女性」のポイントが高く、女性のほうが『男性優遇』と感じていることがわかる。特に「政治で（82.0ポイント）」や「社会全体で（77.3ポイント）」で高くなっている。

年齢別にみると、全体的に50歳代で『男性優遇』のポイントが高く、20歳代でポイントが低くなっている。

地区別にみると、増穂地区・瑞穂地区において、他地区より高いポイントの項目が多くなっている。

## 『男性優遇』－『女性優遇』の差異

（単位：ポイント）

		家庭生活で	地域で	社会通念・慣習で	学校教育で	職場で	政治で	法律や制度で	社会全体で
全体		47.5	49.1	69.6	14.9	58.2	77.5	43.8	70.5
性別	男性	39.9	46.8	64.9	11.1	54.6	71.9	33.5	62.6
	女性	53.9	50.4	73.8	17.3	62.0	82.0	52.7	77.3
年代別	20歳代	41.0	27.3	68.1	6.8	38.6	70.4	18.2	65.9
	30歳代	36.5	47.0	59.9	10.6	47.5	76.4	46.0	63.5
	40歳代	45.4	42.6	64.0	13.5	55.3	74.3	53.4	77.4
	50歳代	44.3	53.4	80.0	18.2	66.7	86.3	49.4	77.0
	60歳代	51.5	55.5	73.6	16.4	58.6	74.4	40.0	68.5
	70歳以上	60.5	55.3	69.0	19.1	71.0	79.6	44.7	70.5
居住地区別	瑞穂地区	40.9	40.4	72.1	16.8	66.1	79.6	52.7	75.7
	山辺地区	44.7	55.8	67.7	10.9	61.3	75.6	42.1	69.9
	大網地区	48.6	48.7	68.9	14.4	55.0	75.2	38.7	70.3
	増穂地区	52.4	43.6	68.9	21.0	49.5	82.0	60.3	73.3
	白里地区	51.1	60.0	69.7	10.8	58.1	75.2	59.5	61.2

※各属性において『男性優遇（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）』－『女性優遇（「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）』を示している

無回答は除く



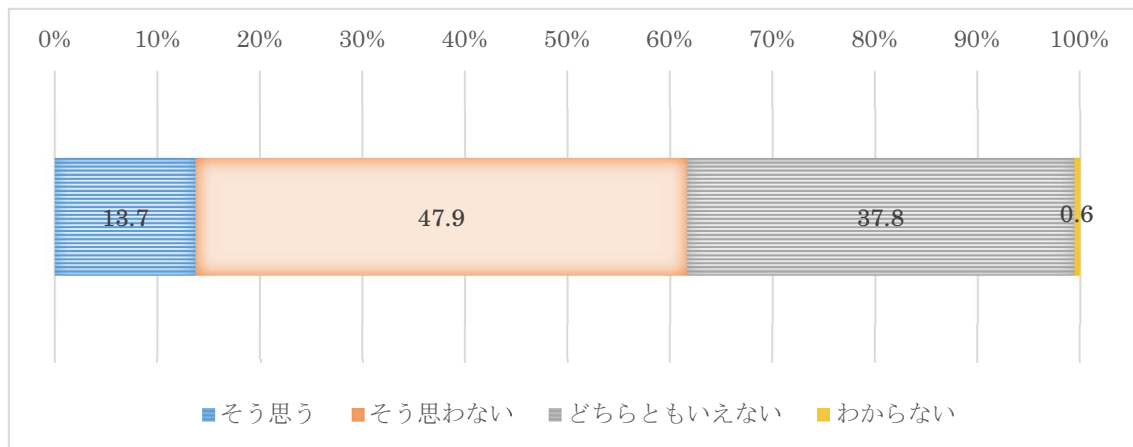
## 【男女の役割分担について】

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

### 【全体】

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対し、「そう思わない」が47.9%とほぼ半数となっている。一方、「そう思う」は13.7%で、「どちらともいえない」が37.8%となっている。

図表2 男女の役割分担についての意識



## 【属性別】

性別では、「そう思う」が男性 18.7%に対し、女性が 8.7%となっており、「男は仕事、女は家庭」と考える男性が女性に比べ多くなっている。

年代別では、70歳以上で「そう思う」と答える割合が高い（21.6%）のに対し、20歳代では「そう思わない」と答える割合が高い（63.6%）。

居住地区別では、瑞穂地区で「そう思う」と答える割合が低く（8.0%）、「そう思わない」と答える割合が高い（52.2%）。

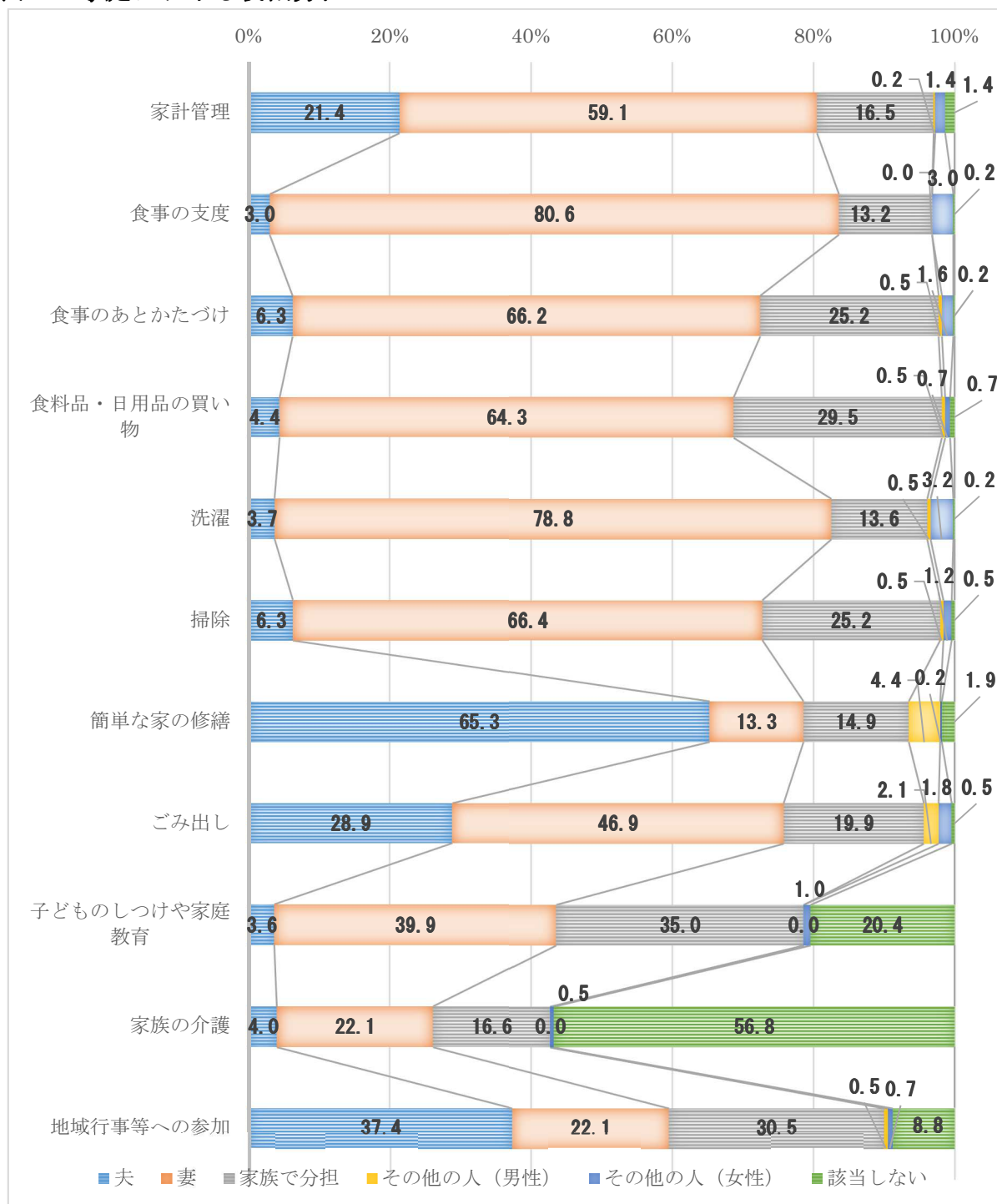
		回答合計	そう思う	そう思わない	どちらともいえない	わからない
<b>全体</b>		<b>524</b>	<b>13.7%</b>	<b>47.9%</b>	<b>37.8%</b>	<b>0.6%</b>
<b>性別</b>	男性	225	18.7%	45.3%	35.1%	0.9%
	女性	275	8.7%	50.2%	40.7%	0.4%
	無回答	24	25.0%	45.8%	29.2%	0.0%
<b>年代</b>	20歳代	44	13.6%	63.6%	22.7%	0.0%
	30歳代	84	8.3%	50.0%	40.5%	1.2%
	40歳代	75	14.7%	45.3%	40.0%	0.0%
	50歳代	88	8.0%	50.0%	42.0%	0.0%
	60歳代	127	15.0%	40.9%	43.3%	0.8%
	70歳以上	102	21.6%	48.0%	29.4%	1.0%
	無回答	4	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
<b>居住地区</b>	瑞穂地区	113	8.0%	52.2%	39.8%	0.0%
	山辺地区	106	15.1%	42.5%	41.5%	0.9%
	大網地区	111	18.0%	48.6%	33.3%	0.0%
	増穂地区	104	14.4%	50.0%	35.6%	0.0%
	白里地区	87	13.8%	46.0%	37.9%	2.3%
	無回答	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%

問3 結婚（事実婚含む）されている方にお聞きします。  
 あなたの家庭では、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

【全体】

「夫」と答える割合が高いのは、「簡単な家の修繕（65.3%）」と「地区行事への参加（37.4%）」のみで、ほとんどの仕事で「妻」と答える割合が高くなっており、妻が多くの役割を担っているのがわかる。特に食事の支度（80.6%）、洗濯（78.8%）で割合が高くなっている。

図表4 家庭における役割分担



問3【属性別】 家計管理

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		430	21.4%	59.1%	16.5%	0.2%	1.4%	1.4%
性別	男性	178	26.4%	56.7%	14.0%	0.6%	0.6%	1.7%
	女性	231	18.2%	59.7%	18.6%	0.0%	2.2%	1.3%
	無回答	21	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	16	25.0%	50.0%	12.5%	6.3%	6.3%	0.0%
	30歳代	61	19.7%	57.4%	18.0%	0.0%	3.3%	1.6%
	40歳代	59	16.9%	64.4%	15.3%	0.0%	0.0%	3.4%
	50歳代	82	25.6%	47.6%	25.6%	0.0%	0.0%	1.2%
	60歳代	114	24.6%	61.4%	14.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	94	18.1%	64.9%	11.7%	0.0%	3.2%	2.1%
	無回答	4	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	100	24.0%	58.0%	18.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	山辺地区	90	27.8%	52.2%	17.8%	0.0%	1.1%	1.1%
	大網地区	90	20.0%	62.2%	15.6%	0.0%	1.1%	1.1%
	増穂地区	86	18.6%	60.5%	16.3%	1.2%	1.2%	2.3%
	白里地区	61	14.8%	62.3%	14.8%	0.0%	4.9%	3.3%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

食事の支度

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		432	3.0%	80.6%	13.2%	0.0%	3.0%	0.2%
性別	男性	178	3.9%	78.1%	15.2%	0.0%	2.2%	0.6%
	女性	232	2.6%	83.2%	10.8%	0.0%	3.4%	0.0%
	無回答	22	0.0%	72.7%	22.7%	0.0%	4.5%	0.0%
年代	20歳代	16	0.0%	56.3%	25.0%	0.0%	18.8%	0.0%
	30歳代	61	0.0%	85.2%	9.8%	0.0%	3.3%	1.6%
	40歳代	59	0.0%	76.3%	20.3%	0.0%	3.4%	0.0%
	50歳代	82	7.3%	79.3%	13.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	114	2.6%	82.5%	13.2%	0.0%	1.8%	0.0%
	70歳以上	96	4.2%	84.4%	8.3%	0.0%	3.1%	0.0%
	無回答	4	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	101	4.0%	82.2%	9.9%	0.0%	4.0%	0.0%
	山辺地区	90	2.2%	77.8%	18.9%	0.0%	1.1%	0.0%
	大網地区	90	0.0%	85.6%	12.2%	0.0%	2.2%	0.0%
	増穂地区	86	7.0%	79.1%	10.5%	0.0%	2.3%	1.2%
	白里地区	62	1.6%	75.8%	16.1%	0.0%	6.5%	0.0%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 食事のあとかたづけ

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		432	6.3%	66.2%	25.2%	0.5%	1.6%	0.2%
性別	男性	180	10.0%	56.7%	30.6%	1.1%	1.1%	0.6%
	女性	231	3.9%	74.0%	19.9%	0.0%	2.2%	0.0%
	無回答	21	0.0%	61.9%	38.1%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	16	0.0%	62.5%	31.3%	0.0%	6.3%	0.0%
	30歳代	61	3.3%	60.7%	31.1%	1.6%	1.6%	1.6%
	40歳代	59	5.1%	71.2%	22.0%	0.0%	1.7%	0.0%
	50歳代	82	6.1%	69.5%	23.2%	1.2%	0.0%	0.0%
	60歳代	115	4.3%	67.0%	27.0%	0.0%	1.7%	0.0%
	70歳以上	95	12.6%	63.2%	22.1%	0.0%	2.1%	0.0%
	無回答	4	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	100	6.0%	67.0%	26.0%	0.0%	1.0%	0.0%
	山辺地区	90	5.6%	65.6%	27.8%	1.1%	0.0%	0.0%
	大網地区	90	7.8%	64.4%	24.4%	1.1%	2.2%	0.0%
	増穂地区	86	7.0%	66.3%	23.3%	0.0%	2.3%	1.2%
	白里地区	63	4.8%	66.7%	25.4%	0.0%	3.2%	0.0%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 食料品・日用品の買物

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		431	4.4%	64.3%	29.5%	0.5%	0.7%	0.7%
性別	男性	179	5.6%	53.1%	38.5%	0.6%	0.6%	1.7%
	女性	231	3.0%	74.5%	21.2%	0.4%	0.9%	0.0%
	無回答	21	9.5%	47.6%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	16	6.3%	43.8%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%
	30歳代	61	3.3%	70.5%	23.0%	1.6%	0.0%	1.6%
	40歳代	59	0.0%	76.3%	23.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	81	3.7%	65.4%	30.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	115	3.5%	65.2%	31.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	95	9.5%	54.7%	31.6%	1.1%	1.1%	2.1%
	無回答	4	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	99	5.1%	61.6%	32.3%	0.0%	1.0%	0.0%
	山辺地区	89	4.5%	64.0%	29.2%	1.1%	0.0%	1.1%
	大網地区	91	2.2%	68.1%	27.5%	1.1%	0.0%	1.1%
	増穂地区	86	9.3%	62.8%	25.6%	0.0%	1.2%	1.2%
	白里地区	63	0.0%	63.5%	34.9%	0.0%	1.6%	0.0%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 洗濯

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		434	3.7%	78.8%	13.6%	0.5%	3.2%	0.2%
性別	男性	180	3.3%	76.7%	16.7%	0.6%	2.2%	0.6%
	女性	232	3.9%	80.6%	11.2%	0.4%	3.9%	0.0%
	無回答	22	4.5%	77.3%	13.6%	0.0%	4.5%	0.0%
年代	20歳代	16	0.0%	56.3%	18.8%	0.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	61	0.0%	80.3%	14.8%	1.6%	1.6%	1.6%
	40歳代	59	5.1%	76.3%	15.3%	0.0%	3.4%	0.0%
	50歳代	82	4.9%	82.9%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	115	1.7%	82.6%	13.9%	0.0%	1.7%	0.0%
	70歳以上	97	7.2%	74.2%	12.4%	1.0%	5.2%	0.0%
	無回答	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	101	3.0%	82.2%	7.9%	0.0%	6.9%	0.0%
	山辺地区	90	8.9%	73.3%	15.6%	1.1%	1.1%	0.0%
	大網地区	91	1.1%	76.9%	22.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	増穂地区	86	2.3%	82.6%	9.3%	1.2%	3.5%	1.2%
	白里地区	63	3.2%	77.8%	14.3%	0.0%	4.8%	0.0%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 掃除

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		429	6.3%	66.4%	25.2%	0.5%	1.2%	0.5%
性別	男性	178	10.1%	53.9%	32.0%	1.1%	1.7%	1.1%
	女性	230	3.5%	76.1%	19.6%	0.0%	0.9%	0.0%
	無回答	21	4.8%	66.7%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	16	0.0%	68.8%	18.8%	0.0%	12.5%	0.0%
	30歳代	61	1.6%	75.4%	19.7%	1.6%	0.0%	1.6%
	40歳代	59	5.1%	69.5%	23.7%	0.0%	1.7%	0.0%
	50歳代	82	6.1%	69.5%	22.0%	1.2%	0.0%	1.2%
	60歳代	114	8.8%	64.0%	27.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	93	8.6%	59.1%	30.1%	0.0%	2.2%	0.0%
	無回答	4	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	99	6.1%	66.7%	25.3%	1.0%	1.0%	0.0%
	山辺地区	90	5.6%	62.2%	30.0%	1.1%	0.0%	1.1%
	大網地区	90	6.7%	72.2%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	増穂地区	84	8.3%	64.3%	22.6%	0.0%	3.6%	1.2%
	白里地区	63	4.8%	65.1%	28.6%	0.0%	1.6%	0.0%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 簡単な家の修繕

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		429	65.3%	13.3%	14.9%	4.4%	0.2%	1.9%
性別	男性	179	73.7%	6.7%	12.3%	3.9%	0.0%	3.4%
	女性	229	58.1%	18.3%	18.3%	3.9%	0.4%	0.9%
	無回答	21	71.4%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	16	50.0%	0.0%	31.3%	12.5%	0.0%	6.3%
	30歳代	61	49.2%	23.0%	18.0%	3.3%	1.6%	4.9%
	40歳代	59	67.8%	13.6%	16.9%	1.7%	0.0%	0.0%
	50歳代	82	63.4%	18.3%	13.4%	2.4%	0.0%	2.4%
	60歳代	115	73.0%	7.8%	15.7%	3.5%	0.0%	0.0%
	70歳以上	93	69.9%	10.8%	9.7%	7.5%	0.0%	2.2%
	無回答	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	101	71.3%	8.9%	11.9%	5.0%	0.0%	3.0%
	山辺地区	90	57.8%	23.3%	15.6%	2.2%	0.0%	1.1%
	大網地区	90	64.4%	13.3%	17.8%	3.3%	0.0%	1.1%
	増穂地区	86	68.6%	11.6%	12.8%	2.3%	1.2%	3.5%
	白里地区	60	63.3%	6.7%	18.3%	11.7%	0.0%	0.0%
	無回答	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## ごみ出し

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		433	28.9%	46.9%	19.9%	2.1%	1.8%	0.5%
性別	男性	179	36.9%	36.9%	21.8%	1.7%	1.7%	1.1%
	女性	232	22.4%	54.3%	18.5%	2.6%	2.2%	0.0%
	無回答	22	31.8%	50.0%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	16	18.8%	12.5%	43.8%	6.3%	18.8%	0.0%
	30歳代	61	29.5%	47.5%	18.0%	1.6%	1.6%	1.6%
	40歳代	59	16.9%	54.2%	27.1%	0.0%	1.7%	0.0%
	50歳代	82	17.1%	59.8%	20.7%	2.4%	0.0%	0.0%
	60歳代	115	33.0%	44.3%	20.0%	1.7%	0.0%	0.9%
	70歳以上	96	42.7%	39.6%	11.5%	3.1%	3.1%	0.0%
	無回答	4	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	101	28.7%	41.6%	25.7%	2.0%	2.0%	0.0%
	山辺地区	90	26.7%	53.3%	17.8%	2.2%	0.0%	0.0%
	大網地区	90	27.8%	51.1%	17.8%	3.3%	0.0%	0.0%
	増穂地区	86	36.0%	39.5%	16.3%	1.2%	4.7%	2.3%
	白里地区	63	25.4%	47.6%	22.2%	1.6%	3.2%	0.0%
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

子どものしつけや家庭教育

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		411	3.6%	39.9%	35.0%	0.0%	1.0%	20.4%
性別	男性	172	4.7%	34.9%	34.9%	0.0%	0.6%	25.0%
	女性	223	3.1%	44.4%	33.6%	0.0%	1.3%	17.5%
	無回答	16	0.0%	31.3%	56.3%	0.0%	0.0%	12.5%
年代	20歳代	16	0.0%	31.3%	56.3%	0.0%	0.0%	12.5%
	30歳代	60	5.0%	53.3%	38.3%	0.0%	0.0%	3.3%
	40歳代	59	0.0%	45.8%	44.1%	0.0%	0.0%	10.2%
	50歳代	80	5.0%	36.3%	42.5%	0.0%	0.0%	16.3%
	60歳代	107	5.6%	40.2%	29.9%	0.0%	1.9%	22.4%
	70歳以上	87	2.3%	31.0%	21.8%	0.0%	2.3%	42.5%
	無回答	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	98	4.1%	37.8%	37.8%	0.0%	2.0%	18.4%
	山辺地区	85	3.5%	44.7%	32.9%	0.0%	0.0%	18.8%
	大網地区	89	2.2%	33.7%	38.2%	0.0%	0.0%	25.8%
	増穂地区	79	5.1%	40.5%	32.9%	0.0%	1.3%	20.3%
	白里地区	58	3.4%	44.8%	31.0%	0.0%	1.7%	19.0%
	無回答	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

家族の介護

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		398	4.0%	22.1%	16.6%	0.0%	0.5%	56.8%
性別	男性	168	6.5%	18.5%	19.0%	0.0%	0.0%	56.0%
	女性	217	2.3%	24.0%	13.8%	0.0%	0.9%	59.0%
	無回答	13	0.0%	38.5%	30.8%	0.0%	0.0%	30.8%
年代	20歳代	16	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	6.3%	87.5%
	30歳代	60	1.7%	15.0%	8.3%	0.0%	1.7%	73.3%
	40歳代	59	3.4%	15.3%	16.9%	0.0%	0.0%	64.4%
	50歳代	81	6.2%	18.5%	22.2%	0.0%	0.0%	53.1%
	60歳代	98	1.0%	32.7%	16.3%	0.0%	0.0%	50.0%
	70歳以上	82	8.5%	26.8%	19.5%	0.0%	0.0%	45.1%
	無回答	2	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
居住地区	瑞穂地区	92	5.4%	19.6%	14.1%	0.0%	1.1%	59.8%
	山辺地区	84	6.0%	23.8%	19.0%	0.0%	0.0%	51.2%
	大網地区	85	0.0%	15.3%	16.5%	0.0%	0.0%	68.2%
	増穂地区	80	6.3%	26.3%	16.3%	0.0%	0.0%	51.3%
	白里地区	55	1.8%	27.3%	18.2%	0.0%	1.8%	50.9%
	無回答	2	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%



地域行事等への参加

		回答合計	夫	妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
全体		420	37.4%	22.1%	30.5%	0.5%	0.7%	8.8%
性別	男性	177	46.3%	11.9%	29.9%	0.6%	0.6%	10.7%
	女性	226	31.4%	30.1%	29.2%	0.4%	0.9%	8.0%
	無回答	17	23.5%	23.5%	52.9%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	16	0.0%	6.3%	56.3%	6.3%	0.0%	31.3%
	30歳代	61	16.4%	26.2%	37.7%	0.0%	0.0%	19.7%
	40歳代	59	18.6%	32.2%	37.3%	0.0%	3.4%	8.5%
	50歳代	81	33.3%	27.2%	33.3%	0.0%	0.0%	6.2%
	60歳代	111	52.3%	18.9%	24.3%	0.0%	0.0%	4.5%
	70歳以上	88	56.8%	13.6%	21.6%	1.1%	1.1%	5.7%
	無回答	4	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	99	31.3%	22.2%	31.3%	1.0%	1.0%	13.1%
	山辺地区	89	41.6%	30.3%	23.6%	0.0%	0.0%	4.5%
	大網地区	88	39.8%	20.5%	33.0%	0.0%	0.0%	6.8%
	増穂地区	81	28.4%	21.0%	34.6%	1.2%	1.2%	13.6%
	白里地区	60	51.7%	11.7%	30.0%	0.0%	1.7%	5.0%
	無回答	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

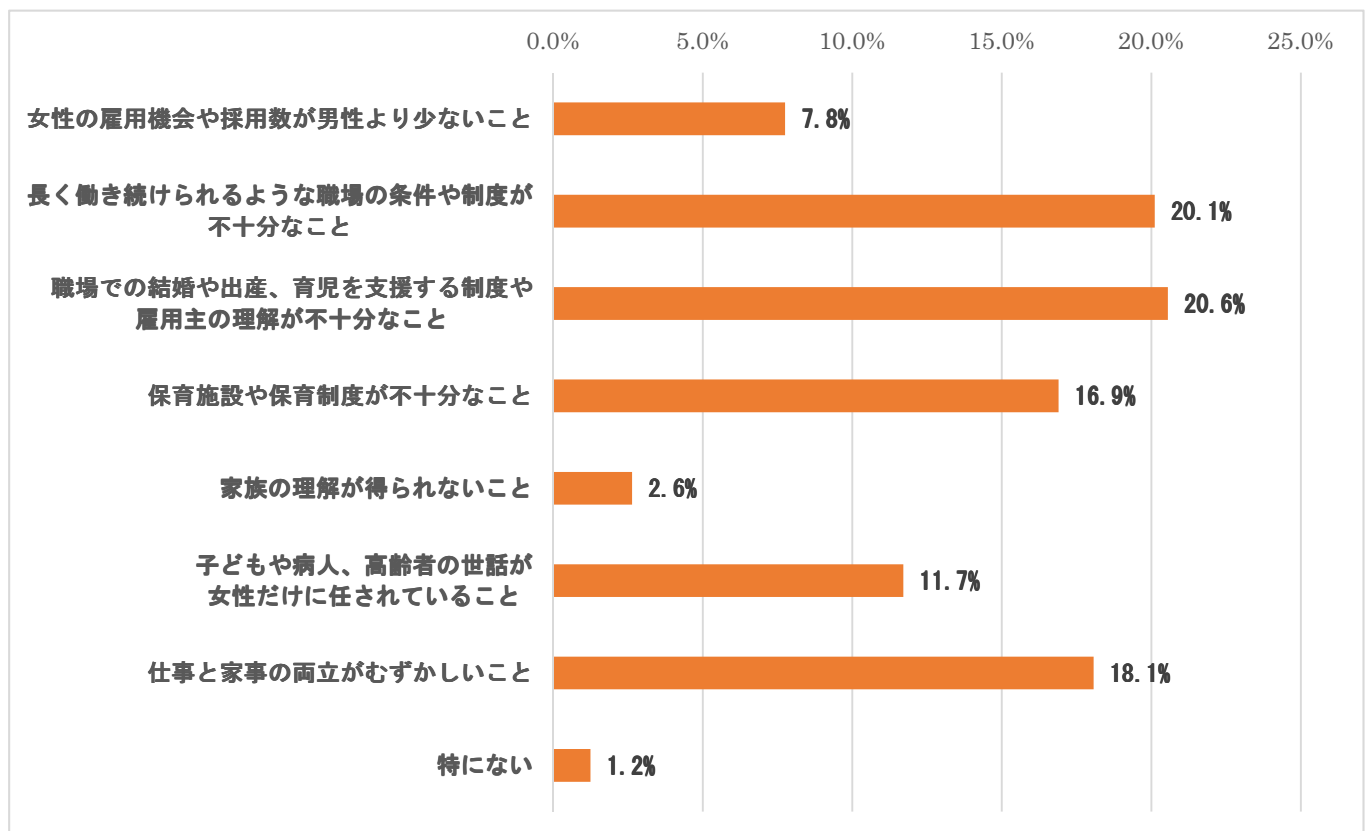
## 【仕事について】

問4 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思えますか。

### 【全体】

「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」が20.6%、「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」が20.1%となっており、雇用する側の理解や制度が障害となっていると答える割合が高い。

図表5 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているもの



## 【属性別】

男女別にみると、男性では「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」の割合が高く（22.7%）、女性では「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」の割合が高い（20.8%）。

年代別にみると20歳代と40歳代では「仕事と家事の両立がむずかしいこと」が最も高く、30歳代では「保育施設や保育制度が不十分なこと」が高くなっている（21.1%）。

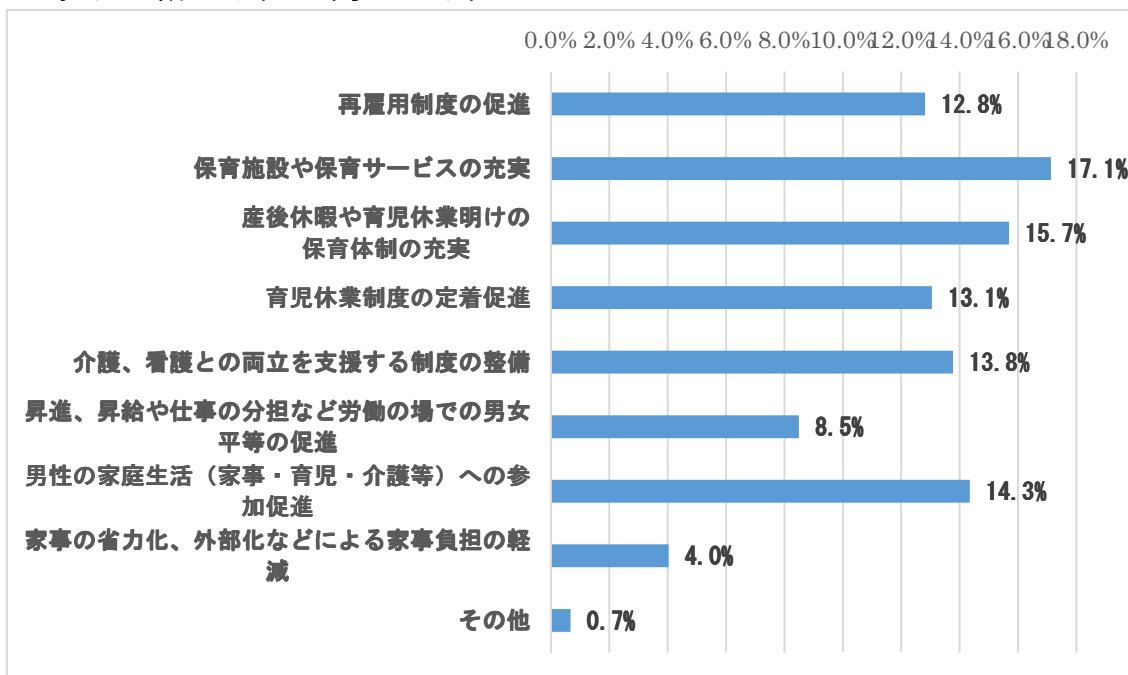
		回答合計	女性の雇用機会や採用数が 男性より少ないこと	長く働き続けられるような 職場の条件や制度が不十分なこと	職場での結婚や出産、育児を支援する 制度や雇用主の理解が不十分なこと	保育施設や保育制度が不十分なこと	家族の理解が得られないこと	子どもや病人、高齢者の世話が 女性だけに任されていること	仕事と家事の両立がむずかしいこと	特になし
全体		1367	7.8%	20.1%	20.6%	16.9%	2.6%	11.7%	18.1%	1.2%
性別	男性	591	9.5%	18.8%	22.7%	17.8%	1.9%	8.6%	19.0%	0.8%
	女性	712	6.3%	20.8%	18.8%	16.4%	3.2%	14.3%	17.6%	1.4%
	無回答	64	7.8%	25.0%	20.3%	14.1%	3.1%	10.9%	15.6%	3.1%
年代	20歳代	115	4.3%	19.1%	21.7%	17.4%	0.9%	8.7%	27.0%	0.9%
	30歳代	232	6.5%	18.1%	20.7%	21.1%	1.3%	13.8%	17.2%	0.9%
	40歳代	195	6.2%	17.9%	19.5%	14.4%	5.1%	14.4%	20.5%	0.5%
	50歳代	227	11.0%	19.8%	21.1%	15.9%	1.8%	11.5%	15.9%	1.8%
	60歳代	324	6.2%	21.0%	20.4%	17.9%	2.8%	12.7%	16.4%	0.9%
	70歳以上	263	11.0%	22.8%	19.8%	14.4%	3.4%	8.7%	17.1%	2.3%
	無回答	11	0.0%	27.3%	36.4%	18.2%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	294	8.5%	21.8%	20.4%	18.7%	2.4%	8.8%	16.3%	1.7%
	山辺地区	272	7.4%	19.1%	19.1%	16.5%	3.7%	12.5%	18.4%	1.1%
	大網地区	288	8.3%	18.4%	19.1%	16.7%	3.1%	12.5%	19.4%	1.7%
	増穂地区	284	6.7%	18.7%	22.2%	19.0%	0.7%	13.7%	18.3%	0.4%
	白里地区	221	8.1%	23.1%	22.2%	12.7%	3.6%	11.3%	17.2%	1.4%
	無回答	8	0.0%	25.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%

問5 雇用の場への女性の進出が進む中で、女性の働きやすい環境を作るため、どのようなことが必要だと思いますか。

**【全体】**

「保育施設や保育サービスの充実」が最も高く（17.1%）、次いで「産後休暇や育児休業明けの保育体制の充実（15.7%）」となっており、保育に関係したニーズが高い。

**図表6 女性の働きやすい環境に必要なこと**



## 【属性別】

性別にみると、最も高いのは男女とも「保育施設や保育サービスの充実」であるが、次点は男性が「産後休暇や育児休業明けの保育体制の充実」（17.0%）なのに対し、女性は「男性の家庭生活（家事・育児・介護等）への参加促進」（15.4%）となっている。

年代別にみると、70歳以上で「介護、看護との両立を支援する制度の整備」が最も高くなっている（16.6%）が、そのほかの年代では「保育施設や保育サービスの充実」が最も高い。

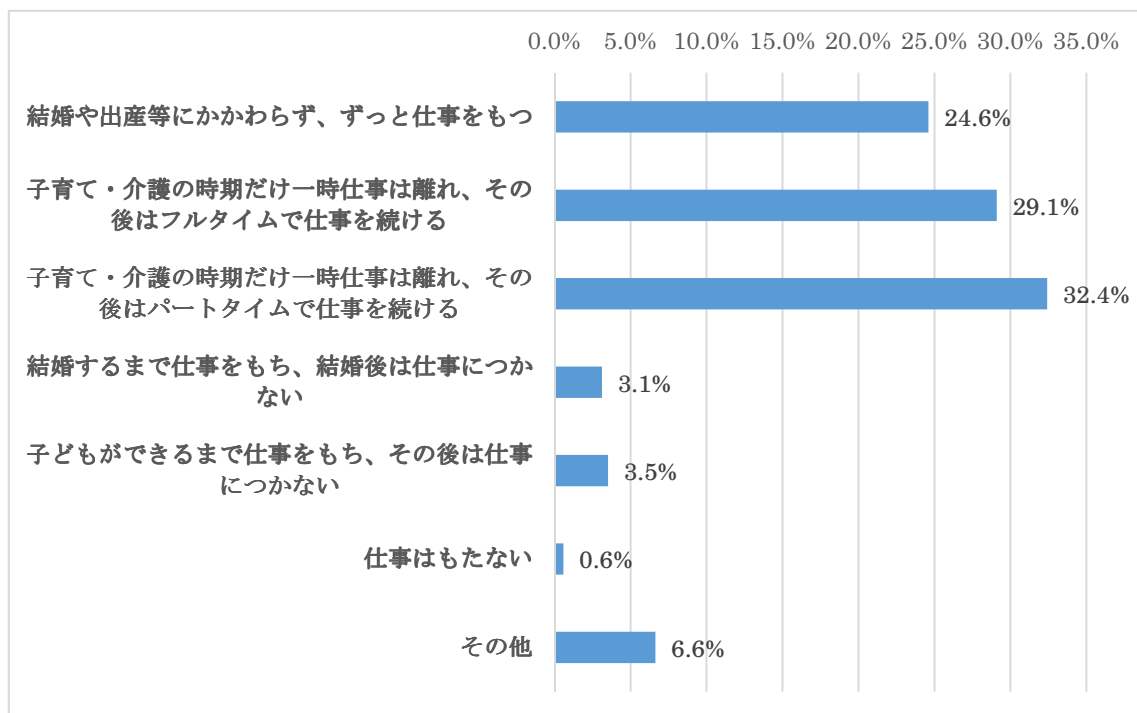
		回答合計	再雇用制度の促進	保育施設や保育サービスの充実	産後休暇や育児休業明けの 保育体制の充実	育児休業制度の定着促進	介護、看護との両立を支援する 制度の整備	労働の場での男女平等の促進	昇進、昇給や仕事の分担など	男性の家庭生活（家事・育児・ 介護等）への参加促進	家事の省力化、外部化などに よる家事負担の軽減	その他
全体		2084	12.8%	17.1%	15.7%	13.1%	13.8%	8.5%	14.3%	4.0%	0.7%	
性別	男性	872	13.2%	18.1%	17.0%	13.8%	11.5%	8.5%	13.2%	3.8%	1.0%	
	女性	1107	12.4%	16.9%	14.5%	12.5%	15.0%	8.6%	15.4%	4.3%	0.5%	
	無回答	105	14.3%	11.4%	17.1%	13.3%	20.0%	7.6%	13.3%	2.9%	0.0%	
年代	20歳代	171	9.9%	18.1%	17.5%	12.9%	9.9%	9.4%	18.1%	4.1%	0.0%	
	30歳代	334	11.4%	19.8%	18.0%	13.5%	9.3%	9.0%	15.6%	3.0%	0.6%	
	40歳代	277	12.3%	16.2%	13.7%	12.6%	14.8%	8.7%	14.4%	5.8%	1.4%	
	50歳代	375	13.1%	17.1%	16.8%	13.3%	13.3%	9.1%	13.1%	3.2%	1.1%	
	60歳代	476	13.7%	16.8%	14.9%	13.7%	15.3%	8.8%	12.6%	3.8%	0.4%	
	70歳以上	422	14.5%	15.9%	14.2%	12.1%	16.6%	6.6%	14.9%	4.7%	0.5%	
	無回答	29	10.3%	13.8%	17.2%	13.8%	17.2%	10.3%	13.8%	3.4%	0.0%	
居住地区	瑞穂地区	473	14.4%	16.9%	16.1%	13.3%	13.7%	8.2%	13.5%	3.4%	0.4%	
	山辺地区	423	10.2%	18.7%	16.1%	13.2%	12.5%	8.5%	15.4%	4.3%	1.2%	
	大網地区	438	12.1%	17.8%	13.7%	12.6%	14.8%	8.4%	15.1%	4.8%	0.7%	
	増穂地区	418	14.1%	16.7%	15.8%	12.9%	12.7%	8.6%	15.1%	3.8%	0.2%	
	白里地区	312	13.8%	15.1%	17.0%	13.5%	15.1%	8.7%	12.2%	3.8%	1.0%	
	無回答	20	5.0%	15.0%	20.0%	10.0%	20.0%	10.0%	15.0%	5.0%	0.0%	

問6 女性の働き方について、次のどれが望ましいと思いますか。

【全体】

「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も高く（32.4%）、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」（29.1%）を上回っている。

図表7 望ましい女性の働き方



## 【属性別】

性別にみると、男性では「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」の割合が最も高い（34.8%）のに対し、女性では「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も高い（37.4%）。

年代別にみると、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」の割合が高いのは40歳代・50歳代・70歳以上で、20歳代・30歳代・60歳代は、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合が高い。

		回答合計	結婚や出産等にかかわらず、 ずっと仕事をもつ	子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、 その後はフルタイムで仕事を続ける	子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、 その後はパートタイムで仕事を続ける	結婚するまで仕事をもち、 結婚後は仕事につかない	子どもができるまで仕事をもち、 その後は仕事につかない	仕事はもたない	その他
全体		512	24.6%	29.1%	32.4%	3.1%	3.5%	0.6%	6.6%
性別	男性	221	21.3%	34.8%	28.1%	4.1%	5.0%	0.5%	6.3%
	女性	265	26.0%	23.4%	37.4%	2.3%	2.6%	0.8%	7.5%
	無回答	26	38.5%	38.5%	19.2%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	44	18.2%	29.5%	38.6%	2.3%	9.1%	0.0%	2.3%
	30歳代	84	25.0%	22.6%	41.7%	2.4%	0.0%	0.0%	8.3%
	40歳代	73	23.3%	31.5%	28.8%	4.1%	2.7%	0.0%	9.6%
	50歳代	87	28.7%	29.9%	24.1%	3.4%	0.0%	1.1%	12.6%
	60歳代	124	28.2%	25.8%	31.5%	2.4%	5.6%	1.6%	4.8%
	70歳以上	94	18.1%	37.2%	33.0%	4.3%	5.3%	0.0%	2.1%
	無回答	6	50.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	111	25.2%	35.1%	30.6%	1.8%	2.7%	0.9%	3.6%
	山辺地区	106	23.6%	21.7%	30.2%	4.7%	5.7%	0.9%	13.2%
	大網地区	107	24.3%	29.9%	29.9%	2.8%	5.6%	0.9%	6.5%
	増穂地区	100	21.0%	28.0%	40.0%	2.0%	2.0%	0.0%	7.0%
	白里地区	83	28.9%	32.5%	31.3%	3.6%	1.2%	0.0%	2.4%
	無回答	5	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問7 あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。

**【全体】**

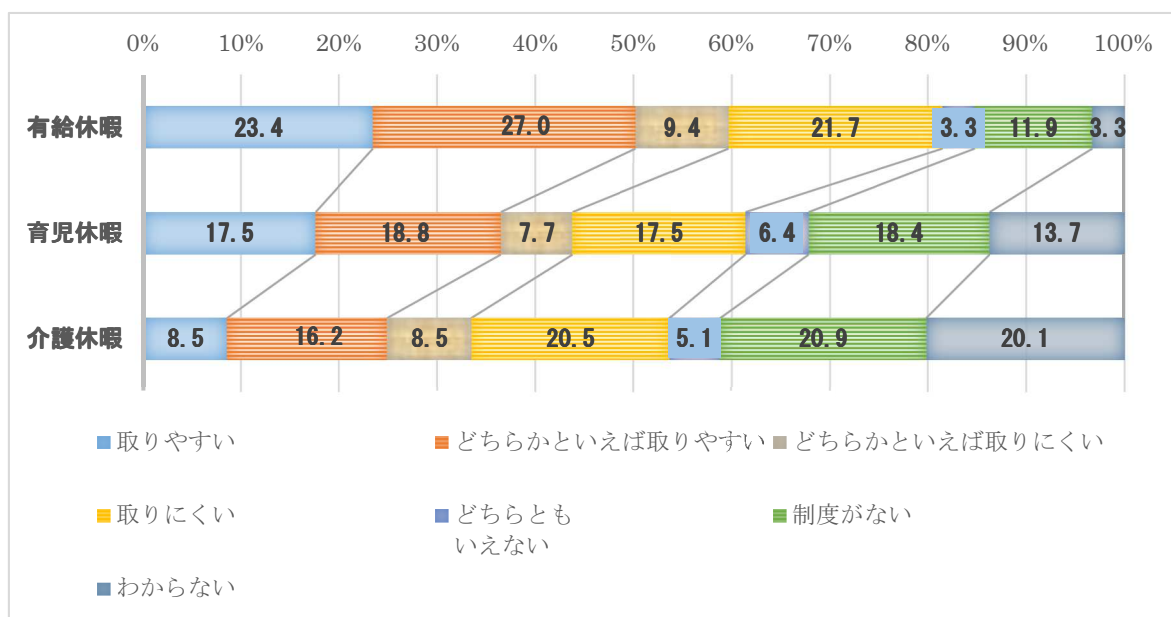
有給休暇については、「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」を合わせると50.4%となり、ほぼ半数となっている。一方、「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」を合わせると31.1%となっている。

育児休業については、「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」を合わせると36.3%で、「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」を合わせると25.2%となっている。

介護休暇については、「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」を合わせると24.7%で、「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」を合わせた29%を下回っている。

また、育児休業については18.4%、介護休暇については20.9%で「制度がない」と回答している。

**図表8 有給休暇・育児休業・介護休暇のとりやすさ**





## 【属性】

### 有給休暇

性別でみると、男性の方が「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の割合が女性よりも高く（53.3%）、女性の方が「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」の割合が男性よりも高い（32.4%）。

年代別でみると、20歳代（30.0%）、30歳代（30.2%）で「取りにくい」の割合が高くなっている。

		回答合計	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	とさうともいえない	制度がない	わからない
全体		244	23.4%	27.0%	9.4%	21.7%	3.3%	11.9%	3.3%
性別	男性	122	25.4%	27.9%	5.7%	23.8%	4.1%	10.7%	2.5%
	女性	108	20.4%	28.7%	11.1%	21.3%	2.8%	12.0%	3.7%
	無回答	14	28.6%	7.1%	28.6%	7.1%	0.0%	21.4%	7.1%
年代	20歳代	30	20.0%	30.0%	13.3%	30.0%	3.3%	3.3%	0.0%
	30歳代	53	20.8%	24.5%	11.3%	30.2%	3.8%	7.5%	1.9%
	40歳代	55	23.6%	32.7%	5.5%	25.5%	1.8%	10.9%	0.0%
	50歳代	53	22.6%	34.0%	5.7%	18.9%	3.8%	13.2%	1.9%
	60歳代	37	35.1%	10.8%	10.8%	8.1%	5.4%	18.9%	10.8%
	70歳以上	11	0.0%	36.4%	18.2%	9.1%	0.0%	27.3%	9.1%
	無回答	5	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	48	18.8%	25.0%	10.4%	18.8%	4.2%	18.8%	4.2%
	山辺地区	52	26.9%	28.8%	13.5%	21.2%	3.8%	3.8%	1.9%
	大網地区	49	28.6%	32.7%	12.2%	20.4%	0.0%	4.1%	2.0%
	増穂地区	49	16.3%	30.6%	2.0%	26.5%	6.1%	16.3%	2.0%
	白里地区	41	24.4%	19.5%	7.3%	24.4%	2.4%	17.1%	4.9%
	無回答	5	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%

## 育児休暇

性別にみると、「取りにくい」の割合が女性で8.9%なのに対し、男性では26.1%となっており、育児休暇を取りにくいと感じている男性が多い。

年代別にみると、20歳代で「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計が「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」の合計を下回っているほかは、どの世代も「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」の合計のほうが高くなっている。

		回答合計	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	いえない どちらとも	制度がない	わからない
<b>全体</b>		<b>234</b>	<b>17.5%</b>	<b>18.8%</b>	<b>7.7%</b>	<b>17.5%</b>	<b>6.4%</b>	<b>18.4%</b>	<b>13.7%</b>
<b>性別</b>	<b>男性</b>	<b>119</b>	<b>15.1%</b>	<b>19.3%</b>	<b>7.6%</b>	<b>26.1%</b>	<b>4.2%</b>	<b>16.0%</b>	<b>11.8%</b>
	<b>女性</b>	<b>101</b>	<b>18.8%</b>	<b>17.8%</b>	<b>7.9%</b>	<b>8.9%</b>	<b>7.9%</b>	<b>21.8%</b>	<b>16.8%</b>
	<b>無回答</b>	<b>14</b>	<b>28.6%</b>	<b>21.4%</b>	<b>7.1%</b>	<b>7.1%</b>	<b>14.3%</b>	<b>14.3%</b>	<b>7.1%</b>
<b>年代</b>	<b>20歳代</b>	<b>28</b>	<b>21.4%</b>	<b>10.7%</b>	<b>14.3%</b>	<b>25.0%</b>	<b>3.6%</b>	<b>10.7%</b>	<b>14.3%</b>
	<b>30歳代</b>	<b>51</b>	<b>17.6%</b>	<b>15.7%</b>	<b>7.8%</b>	<b>21.6%</b>	<b>9.8%</b>	<b>21.6%</b>	<b>5.9%</b>
	<b>40歳代</b>	<b>54</b>	<b>20.4%</b>	<b>27.8%</b>	<b>3.7%</b>	<b>13.0%</b>	<b>5.6%</b>	<b>18.5%</b>	<b>11.1%</b>
	<b>50歳代</b>	<b>52</b>	<b>13.5%</b>	<b>15.4%</b>	<b>11.5%</b>	<b>21.2%</b>	<b>5.8%</b>	<b>17.3%</b>	<b>15.4%</b>
	<b>60歳代</b>	<b>33</b>	<b>18.2%</b>	<b>24.2%</b>	<b>3.0%</b>	<b>9.1%</b>	<b>3.0%</b>	<b>15.2%</b>	<b>27.3%</b>
	<b>70歳以上</b>	<b>11</b>	<b>9.1%</b>	<b>18.2%</b>	<b>0.0%</b>	<b>18.2%</b>	<b>9.1%</b>	<b>36.4%</b>	<b>9.1%</b>
	<b>無回答</b>	<b>5</b>	<b>20.0%</b>	<b>0.0%</b>	<b>20.0%</b>	<b>0.0%</b>	<b>20.0%</b>	<b>20.0%</b>	<b>20.0%</b>
<b>居住地区</b>	<b>瑞穂地区</b>	<b>47</b>	<b>19.1%</b>	<b>23.4%</b>	<b>12.8%</b>	<b>12.8%</b>	<b>4.3%</b>	<b>19.1%</b>	<b>8.5%</b>
	<b>山辺地区</b>	<b>50</b>	<b>16.0%</b>	<b>18.0%</b>	<b>10.0%</b>	<b>22.0%</b>	<b>8.0%</b>	<b>14.0%</b>	<b>12.0%</b>
	<b>大網地区</b>	<b>46</b>	<b>19.6%</b>	<b>26.1%</b>	<b>2.2%</b>	<b>19.6%</b>	<b>6.5%</b>	<b>10.9%</b>	<b>15.2%</b>
	<b>増穂地区</b>	<b>47</b>	<b>8.5%</b>	<b>17.0%</b>	<b>6.4%</b>	<b>14.9%</b>	<b>8.5%</b>	<b>27.7%</b>	<b>17.0%</b>
	<b>白里地区</b>	<b>39</b>	<b>25.6%</b>	<b>10.3%</b>	<b>5.1%</b>	<b>20.5%</b>	<b>5.1%</b>	<b>20.5%</b>	<b>12.8%</b>
	<b>無回答</b>	<b>5</b>	<b>20.0%</b>	<b>0.0%</b>	<b>20.0%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.0%</b>	<b>20.0%</b>	<b>40.0%</b>

## 介護休暇

性別にみると、「取りにくい」と答えた割合が女性の14.9%に対し、男性では26.3%と高くなっている。

年代別にみると、どの世代でも「どちらかといえば取りにくい」、「取りにくい」の合計が「取りやすい」、「どちらかといえば取りやすい」を上回っているが、最もその差が大きいのは30歳代となっている。

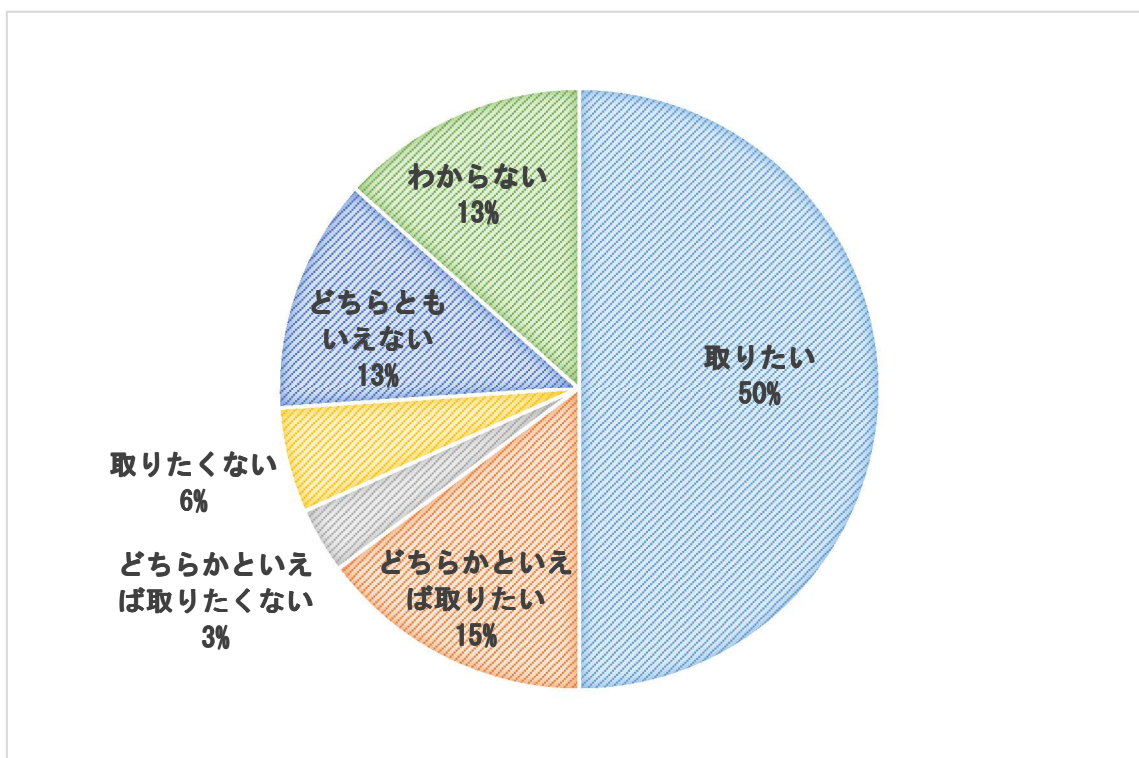
		回答合計	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	いえない どちらとも	制度がない	わからない
全体		234	8.5%	16.2%	8.5%	20.5%	5.1%	20.9%	20.1%
性別	男性	118	8.5%	16.9%	11.0%	26.3%	3.4%	16.1%	17.8%
	女性	101	7.9%	14.9%	5.9%	14.9%	5.9%	26.7%	23.8%
	無回答	15	13.3%	20.0%	6.7%	13.3%	13.3%	20.0%	13.3%
年代	20歳代	28	14.3%	3.6%	14.3%	14.3%	3.6%	17.9%	32.1%
	30歳代	50	6.0%	10.0%	6.0%	30.0%	4.0%	26.0%	18.0%
	40歳代	53	9.4%	26.4%	3.8%	18.9%	5.7%	22.6%	13.2%
	50歳代	52	7.7%	15.4%	15.4%	21.2%	5.8%	17.3%	17.3%
	60歳代	35	8.6%	22.9%	8.6%	14.3%	2.9%	11.4%	31.4%
	70歳以上	11	0.0%	18.2%	0.0%	27.3%	9.1%	36.4%	9.1%
	無回答	5	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%
居住地区	瑞穂地区	47	8.5%	23.4%	10.6%	19.1%	4.3%	19.1%	14.9%
	山辺地区	51	9.8%	11.8%	13.7%	27.5%	7.8%	15.7%	13.7%
	大網地区	45	11.1%	20.0%	6.7%	15.6%	6.7%	17.8%	22.2%
	増穂地区	48	2.1%	10.4%	6.3%	20.8%	4.2%	29.2%	27.1%
	白里地区	38	10.5%	18.4%	5.3%	21.1%	2.6%	21.1%	21.1%
	無回答	5	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	40.0%

問8 あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。

**【全体】**

「取りたい」、「どちらかといえば取りたい」の合計が65%と高くなっている一方、「どちらかといえば取りたくない」、「取りたくない」の合計は9%となっている。

図表9 育児休業を取りたい割合



## 【属性別】

性別にみると、「取りたい」は女性で74.1%であるが、男性では34.6%となっている。一方、「取りたくない」は女性では0%であるが、男性では9.0%となっている。

年代別にみると、どの世代も「取りたい」が最も高いが、中でも20歳代が60.0%と最も高くなっている。

		回答合計	取りたい	どちらかといえば取りたい	どちらかといえば取りたくない	取りたくない	いえない どちらとも	わからない
全体		142	50.0%	14.8%	3.5%	5.6%	12.7%	13.4%
性別	男性	78	34.6%	20.5%	5.1%	9.0%	15.4%	15.4%
	女性	54	74.1%	9.3%	1.9%	0.0%	7.4%	7.4%
	無回答	10	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	30.0%
年代	20歳代	20	60.0%	15.0%	5.0%	5.0%	15.0%	0.0%
	30歳代	33	57.6%	24.2%	6.1%	6.1%	3.0%	3.0%
	40歳代	41	53.7%	14.6%	2.4%	0.0%	14.6%	14.6%
	50歳代	30	36.7%	6.7%	0.0%	10.0%	23.3%	23.3%
	60歳代	13	30.8%	15.4%	7.7%	15.4%	0.0%	30.8%
	70歳以上	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	無回答	3	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	30	50.0%	6.7%	3.3%	6.7%	13.3%	20.0%
	山辺地区	30	40.0%	20.0%	0.0%	10.0%	13.3%	16.7%
	大網地区	34	55.9%	17.6%	5.9%	8.8%	5.9%	5.9%
	増穂地区	24	41.7%	16.7%	4.2%	0.0%	16.7%	20.8%
	白里地区	21	61.9%	9.5%	4.8%	0.0%	19.0%	4.8%
	無回答	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

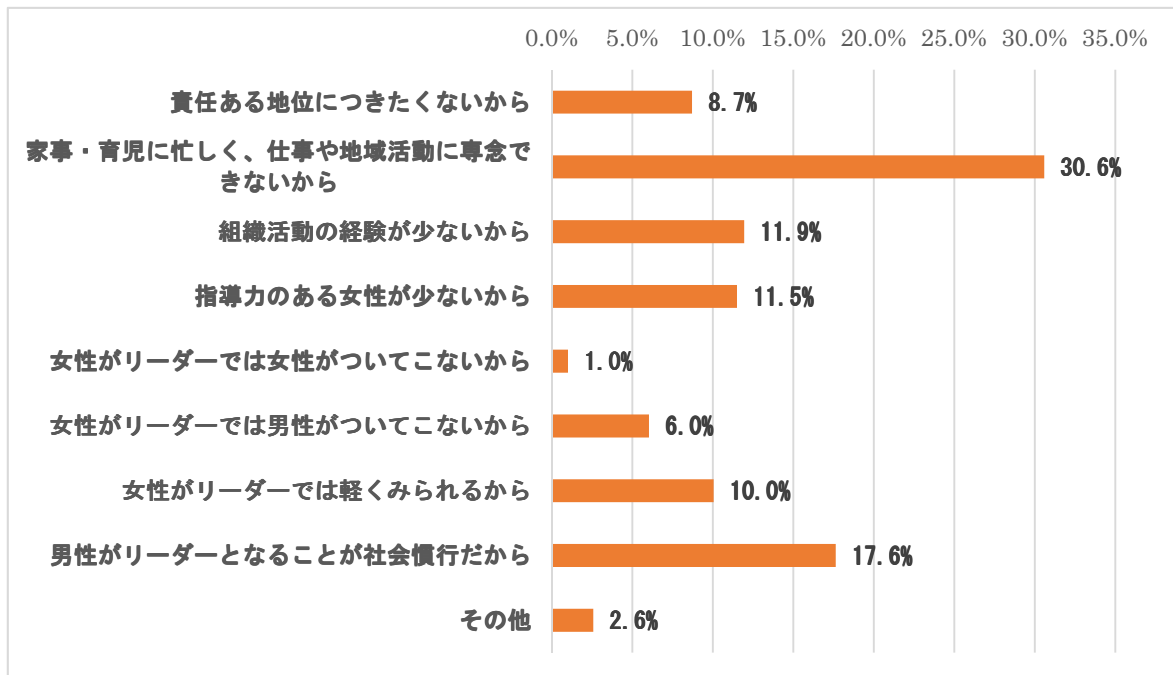
## 【女性の社会参加について】

問9 職場や地域活動で、女性のリーダーが少ないようですが、その要因は何だと思いますか。

### 【全体】

「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」が最も高く（30.6%）、次いで「男性がリーダーとなることが社会慣行だから」（17.6%）となっている。

図表10 女性リーダーが少ない要因



## 【属性別】

性別にみると、男女とも最も高いのは「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」、次いで「男性がリーダーとなることが社会慣行だから」となっている。

年代別・居住地区別も同様の結果となっている。

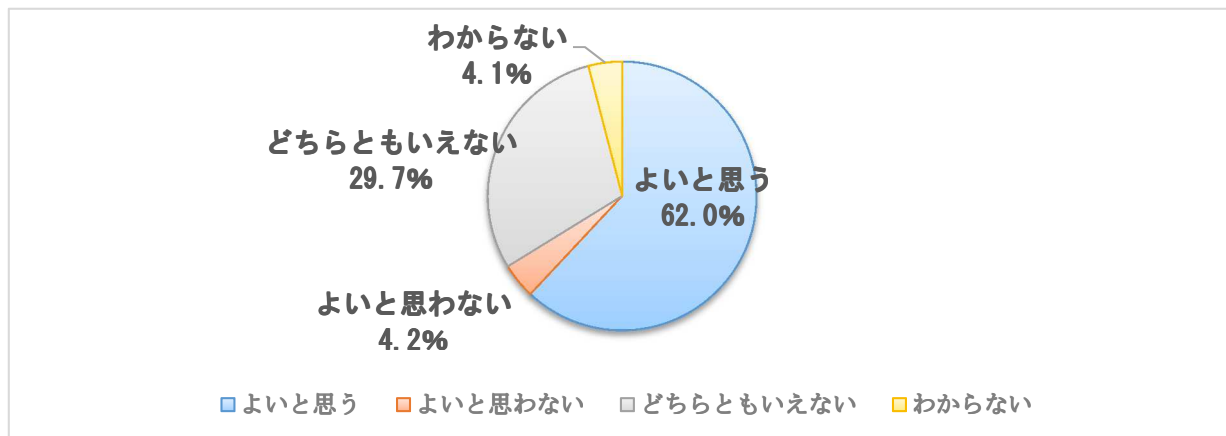
		回答合計	責任ある地位につきたくないから	家事・育児に忙しく、 仕事や地域活動に専念できないから	組織活動の経験が少ないから	指導力のある女性が少ないから	女性がリーダーでは女性がついてこないから	女性がリーダーでは男性がついてこないから	女性がリーダーでは軽くみられるから	男性がリーダーとなることが社会慣行だから	その他
全体		896	8.7%	30.6%	11.9%	11.5%	1.0%	6.0%	10.0%	17.6%	2.6%
性別	男性	384	10.9%	29.9%	11.7%	13.8%	1.3%	3.9%	7.8%	18.0%	2.6%
	女性	464	6.7%	31.0%	12.3%	9.3%	0.6%	7.3%	12.5%	17.7%	2.6%
	無回答	48	10.4%	31.3%	10.4%	14.6%	2.1%	10.4%	4.2%	14.6%	2.1%
年代	20歳代	78	9.0%	29.5%	3.8%	5.1%	1.3%	6.4%	19.2%	24.4%	1.3%
	30歳代	147	4.1%	39.5%	10.9%	3.4%	0.7%	9.5%	12.2%	17.0%	2.7%
	40歳代	133	8.3%	27.8%	13.5%	9.0%	2.3%	4.5%	10.5%	18.0%	6.0%
	50歳代	146	11.6%	29.5%	8.9%	14.4%	1.4%	5.5%	9.6%	18.5%	0.7%
	60歳代	217	11.5%	29.0%	12.4%	14.7%	0.5%	4.1%	10.6%	14.7%	2.3%
	70歳以上	163	5.5%	28.8%	18.4%	16.6%	0.6%	5.5%	3.7%	19.0%	1.8%
	無回答	12	25.0%	25.0%	0.0%	16.7%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	8.3%
居住地区	瑞穂地区	184	8.7%	35.3%	14.1%	7.6%	0.0%	3.3%	10.3%	19.0%	1.6%
	山辺地区	186	10.2%	31.2%	10.8%	15.1%	1.1%	3.8%	6.5%	18.8%	2.7%
	大網地区	187	7.0%	31.6%	13.4%	10.2%	0.5%	7.0%	11.8%	15.0%	3.7%
	増穂地区	184	8.7%	30.4%	10.3%	10.3%	2.2%	9.2%	10.3%	15.2%	3.3%
	白里地区	146	8.9%	23.3%	11.0%	14.4%	1.4%	5.5%	12.3%	21.9%	1.4%
	無回答	9	11.1%	22.2%	11.1%	22.2%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

問10 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で、女性が指導的地位に占める割合が増える方がよいと思いますか。

**【全体】**

「よいと思う」は62.0%で、「よいと思わない」は4.2%、「どちらともいえない」は29.7%である。

**図表11 指導的地位の女性が増えたほうがよいと思う割合**



**【属性別】**

		回答合計	よいと思う	よいと思わない	どちらともいえない	わからない
<b>全体</b>		518	62.0%	4.2%	29.7%	4.1%
<b>性別</b>	男性	222	64.0%	6.3%	25.7%	4.1%
	女性	270	60.4%	2.2%	33.0%	4.4%
	無回答	26	61.5%	7.7%	30.8%	0.0%
<b>年代</b>	20歳代	44	59.1%	4.5%	29.5%	6.8%
	30歳代	85	54.1%	4.7%	37.6%	3.5%
	40歳代	75	57.3%	8.0%	34.7%	0.0%
	50歳代	87	71.3%	0.0%	24.1%	4.6%
	60歳代	125	64.0%	6.4%	24.0%	5.6%
	70歳以上	96	62.5%	1.0%	32.3%	4.2%
	無回答	6	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%
<b>居住地区</b>	瑞穂地区	111	63.1%	2.7%	32.4%	1.8%
	山辺地区	105	64.8%	4.8%	26.7%	3.8%
	大網地区	109	63.3%	5.5%	26.6%	4.6%
	増穂地区	102	55.9%	2.9%	36.3%	4.9%
	白里地区	86	62.8%	4.7%	26.7%	5.8%
	無回答	5	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%

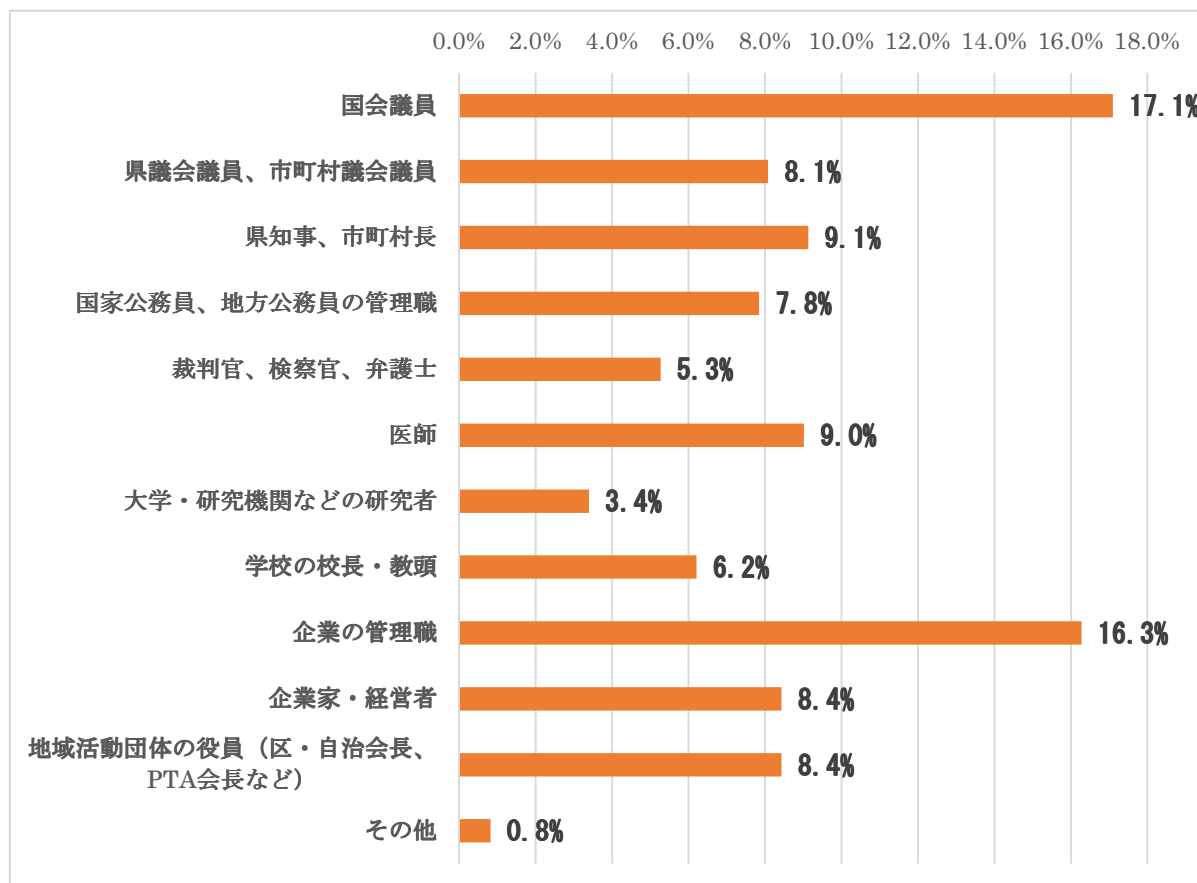


問11 次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。

**【全体】**

「国会議員」が最も高く（17.1%）、次いで企業の管理職（16.3%）であった。

**図表12 女性の割合が増えた方がよいと思う職業・役職**



## 【属性別】

性別にみると、男女とも「国会議員」が最も高く、次いで「企業の管理職」となっている。

年代別にみると、20歳代では「医師」が最も高く（17.1%）、40歳代では「企業の管理職」が最も高くなっている（17.1%）。

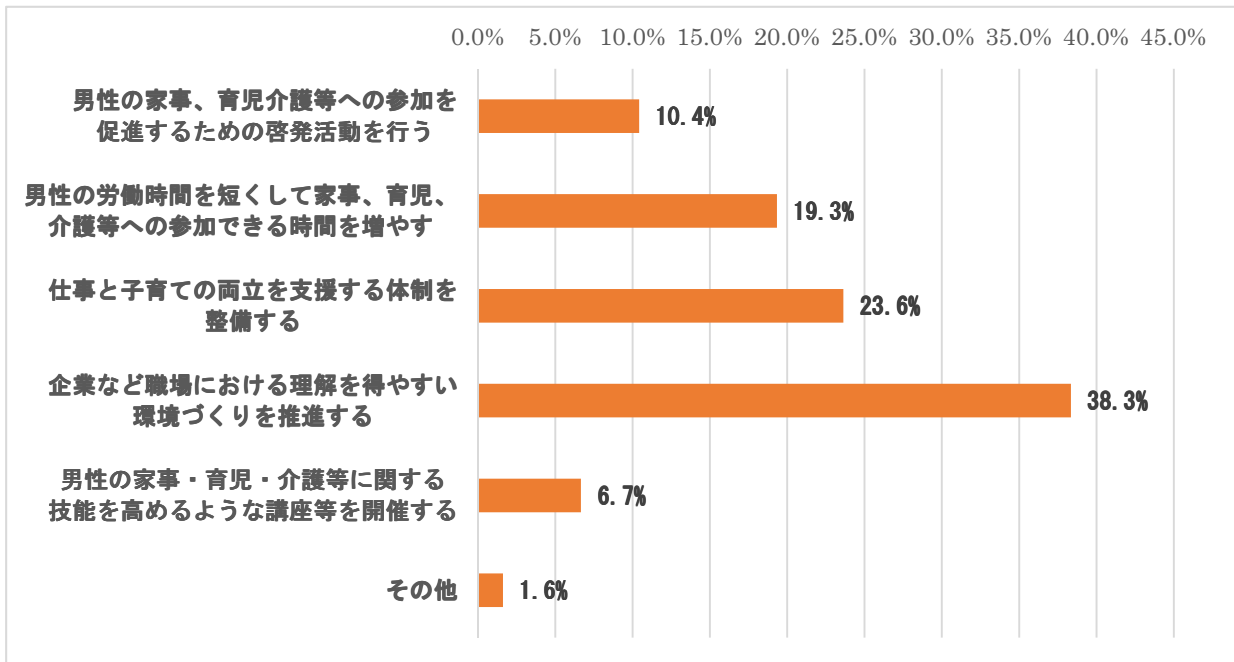
		回答合計	国会議員	県議会議員、市町村議会議員	県知事、市町村長	国家公務員、地方公務員の管理職	裁判官、検察官、弁護士	医師	大学・研究機関などの研究者	学校の校長・教頭	企業の管理職	企業家・経営者	地域活動団体の役員 (区・自治会長、PTA会長など)	その他
全体		854	17.1%	8.1%	9.1%	7.8%	5.3%	9.0%	3.4%	6.2%	16.3%	8.4%	8.4%	0.8%
性別	男性	375	16.5%	9.1%	8.5%	8.3%	4.0%	7.2%	2.9%	6.7%	16.8%	8.3%	11.2%	0.5%
	女性	435	17.5%	6.9%	9.7%	7.1%	6.4%	11.0%	3.7%	5.7%	15.9%	8.7%	6.2%	1.1%
	無回答	44	18.2%	11.4%	9.1%	11.4%	4.5%	4.5%	4.5%	6.8%	15.9%	6.8%	6.8%	0.0%
年代	20歳代	70	15.7%	4.3%	7.1%	10.0%	8.6%	17.1%	4.3%	10.0%	11.4%	7.1%	4.3%	0.0%
	30歳代	119	18.5%	5.0%	9.2%	7.6%	8.4%	10.9%	1.7%	8.4%	17.6%	5.9%	5.9%	0.8%
	40歳代	111	11.7%	3.6%	9.0%	6.3%	6.3%	11.7%	6.3%	7.2%	17.1%	12.6%	7.2%	0.9%
	50歳代	165	17.0%	9.1%	13.3%	7.9%	2.4%	6.7%	0.6%	6.1%	17.0%	9.1%	7.9%	3.0%
	60歳代	225	18.2%	9.8%	10.2%	8.4%	5.3%	6.7%	3.1%	4.9%	15.1%	8.9%	9.3%	0.0%
	70歳以上	152	18.4%	11.8%	3.3%	6.6%	3.9%	8.6%	5.3%	3.9%	17.8%	7.2%	13.2%	0.0%
	無回答	12	25.0%	8.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	196	16.3%	6.6%	6.6%	8.7%	6.1%	9.2%	4.1%	9.2%	19.4%	5.1%	8.2%	0.5%
	山辺地区	179	15.6%	8.4%	11.7%	5.0%	4.5%	8.9%	3.4%	3.9%	18.4%	13.4%	6.1%	0.6%
	大網地区	195	17.9%	5.6%	9.7%	9.7%	7.7%	10.3%	5.1%	5.6%	11.3%	6.2%	9.7%	1.0%
	増穂地区	149	23.5%	10.1%	8.7%	5.4%	2.7%	8.7%	1.3%	7.4%	16.8%	8.7%	5.4%	1.3%
	白里地区	127	11.8%	11.0%	7.9%	11.0%	4.7%	7.9%	1.6%	3.9%	15.7%	10.2%	13.4%	0.8%
	無回答	8	12.5%	12.5%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%

問12 これまで男性は、比較的家事、育児、介護等への参加が少なかったと言われていますが、男性の参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

**【全体】**

「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が最も高く（38.3%）、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」となっている（23.6%）。

**図表13 男性の家事・育児・介護等への参加を促すために必要だと思うこと**



## 【属性別】

性別にみると、男女とも「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が最も高く、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」となっている。

年代別にみると、20歳代で「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」が最も高くなっている（31.7%）ほかは、「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が最も高くなっている。

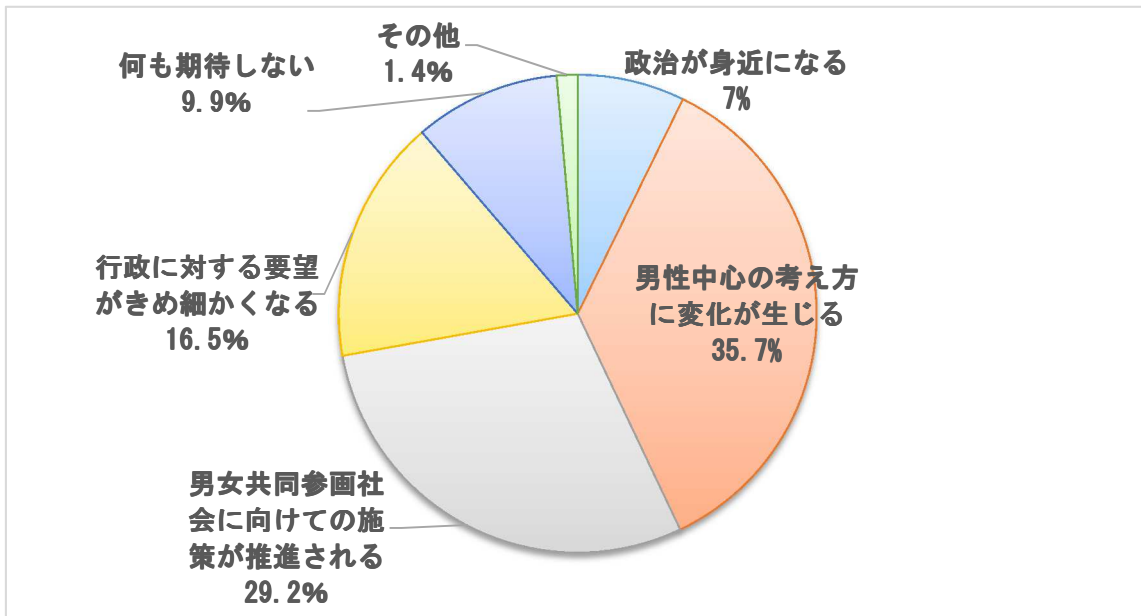
		回答合計	男性の家事、育児介護等への参加を促進するための啓発活動を行う	男性の労働時間を短くして家事、育児、介護等への参加できる時間を増やす	仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する	企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する	男性の家事・育児・介護等に関する技能を高めるような講座等を開催する	その他
全体		931	10.4%	19.3%	23.6%	38.3%	6.7%	1.6%
性別	男性	399	10.0%	19.8%	24.3%	37.6%	6.3%	2.0%
	女性	486	10.5%	19.3%	23.3%	39.3%	6.2%	1.4%
	無回答	46	13.0%	15.2%	21.7%	34.8%	15.2%	0.0%
年代	20歳代	82	7.3%	24.4%	31.7%	30.5%	6.1%	0.0%
	30歳代	153	5.9%	20.9%	29.4%	39.2%	3.3%	1.3%
	40歳代	132	8.3%	20.5%	23.5%	37.9%	5.3%	4.5%
	50歳代	152	8.6%	23.0%	25.0%	38.2%	3.9%	1.3%
	60歳代	230	10.4%	18.7%	20.0%	41.3%	8.3%	1.3%
	70歳以上	172	19.2%	12.2%	18.6%	37.2%	11.6%	1.2%
	無回答	10	10.0%	20.0%	20.0%	50.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	204	10.3%	20.1%	24.0%	41.2%	3.9%	0.5%
	山辺地区	198	10.6%	19.7%	23.2%	35.9%	8.1%	2.5%
	大網地区	197	12.2%	18.3%	22.3%	41.1%	5.1%	1.0%
	増穂地区	181	8.3%	22.7%	23.2%	34.8%	8.3%	2.8%
	白里地区	144	10.4%	14.6%	26.4%	38.2%	9.0%	1.4%
	無回答	7	14.3%	28.6%	14.3%	42.9%	0.0%	0.0%

問13 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化することに期待しますか。

**【全体】**

「男性中心の考え方に変化が生じる」が最も高く（35.7%）、次いで「男女共同参画社会に向けての施策が推進される」（29.2%）となっている。

図表14 政策決定の場への女性の参画増加によって期待すること



## 【属性別】

性別にみると、男性では「男女共同参画社会に向けての施策が推進される」が最も高く（36.7%）、女性では「男性中心の考え方に変化が生じる」が最も高く（42.7%）なっている。

年代別にみると、70歳以上で「男女共同参画社会に向けての施策が推進される」が最も高くなっている（36.2%）ほかは、「男性中心の考え方に変化が生じる」が最も高くなっている。

居住地区別にみると、瑞穂地区で「男女共同参画社会に向けての施策が推進される」が最も高くなっている（33.6%）ほかは、「男性中心の考え方に変化が生じる」が最も高くなっている。

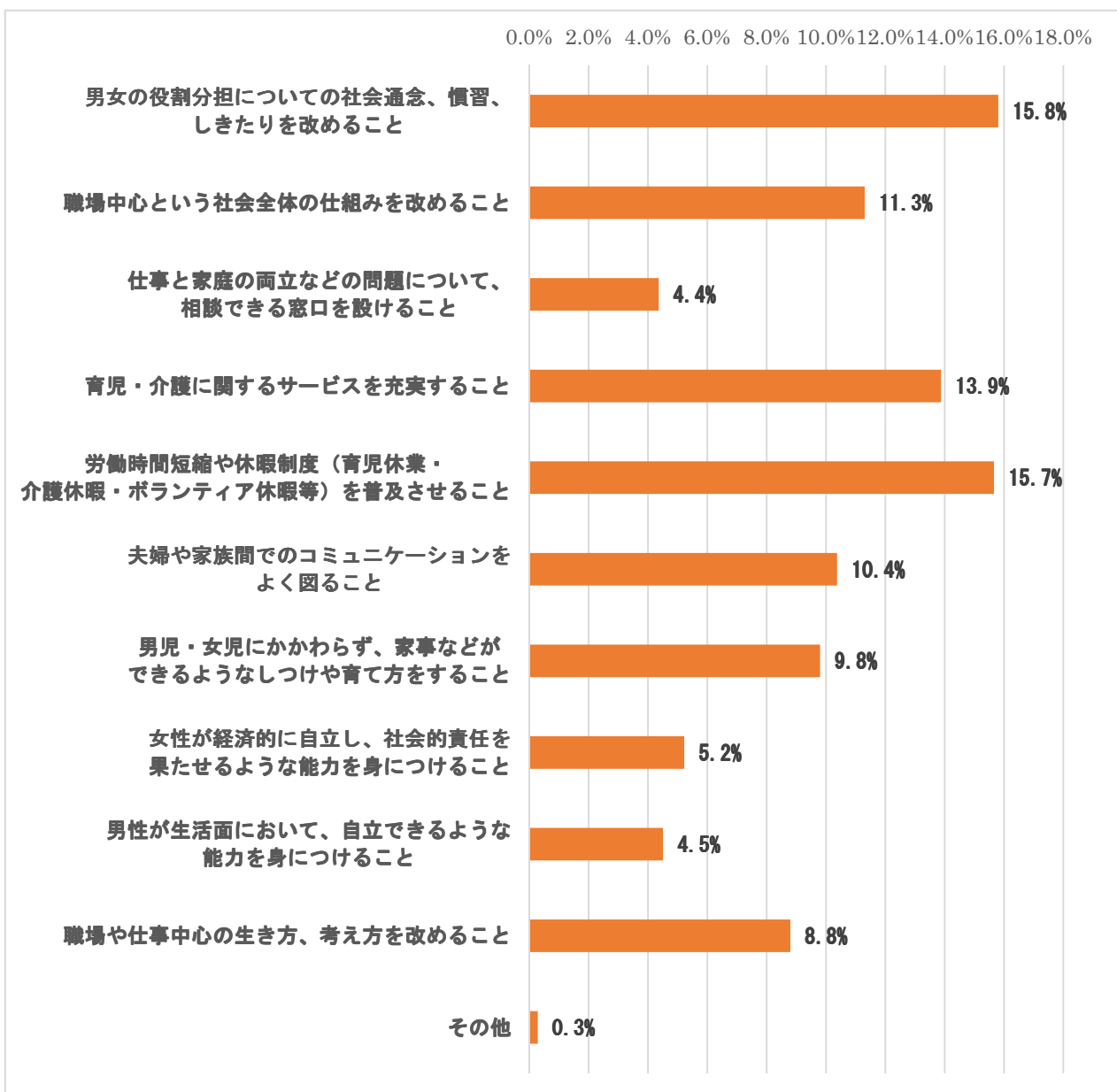
		回答合計	政治が身近になる	男性中心の考え方に 変化が生じる	男女共同参画社会に向 ける施策が推進される	行政に対する要望が きめ細かくなる	何も期待しない	その他
全体		496	7.3%	35.7%	29.2%	16.5%	9.9%	1.4%
性別	男性	215	7.4%	28.8%	36.7%	14.4%	11.2%	1.4%
	女性	255	6.7%	42.7%	23.5%	17.3%	8.2%	1.6%
	無回答	26	11.5%	23.1%	23.1%	26.9%	15.4%	0.0%
年代	20歳代	43	7.0%	37.2%	32.6%	11.6%	11.6%	0.0%
	30歳代	83	6.0%	42.2%	27.7%	8.4%	13.3%	2.4%
	40歳代	70	5.7%	38.6%	22.9%	17.1%	12.9%	2.9%
	50歳代	82	7.3%	30.5%	26.8%	23.2%	9.8%	2.4%
	60歳代	118	10.2%	38.1%	28.8%	15.3%	6.8%	0.8%
	70歳以上	94	5.3%	28.7%	36.2%	21.3%	8.5%	0.0%
	無回答	6	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	107	4.7%	31.8%	33.6%	21.5%	8.4%	0.0%
	山辺地区	97	14.4%	32.0%	27.8%	12.4%	11.3%	2.1%
	大網地区	106	4.7%	38.7%	32.1%	13.2%	10.4%	0.9%
	増穂地区	100	8.0%	39.0%	22.0%	17.0%	10.0%	4.0%
	白里地区	81	3.7%	37.0%	30.9%	18.5%	9.9%	0.0%
	無回答	5	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%

問14 男女がともにあらゆる場面（仕事、家事、育児、介護、地域活動など）に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

**【全体】**

「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高く（15.8%）、次いで「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること」（15.7%）、「育児・介護に関するサービスを充実すること」（13.9%）となっている。

**図表15 男女が仕事、家事、育児、介護地域活動などに積極的に参加するために必要だと思うこと**



## 【属性別】

性別にみると、男性では「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること」が最も高く（17.5%）、女性では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高い（15.9%）。

年代別にみると、20歳代と30歳代では「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること」が最も高く、40歳代では「職名中心という社会全体の仕組みを改めること」が最も高い（17.4%）。50歳代では「育児・介護に関するサービスを充実すること」が最も高く（16.9%）、60歳代と70歳以上では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高い。

居住地区別にみると、瑞穂地区と白里地区で「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること」が最も高いほかは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高い。

	回答合計	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	職場中心という社会全体の仕組みを改めること	仕事と家庭の両立などの問題について、相談できる窓口を設けること	育児・介護に関するサービスを充実すること	労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	男児・女児にかかわらず、家事などができるようやしつけや育て方をすること	女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること	男性が生活面において、自立できるような能力を身につけること	職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること	その他	
全体	1398	15.8%	11.3%	4.4%	13.9%	15.7%	10.4%	9.8%	5.2%	4.5%	8.8%	0.3%	
性別	男性	594	15.8%	12.5%	5.6%	14.8%	9.3%	6.9%	4.9%	3.7%	8.9%	0.2%	
	女性	731	15.9%	10.3%	3.3%	13.1%	14.5%	11.4%	5.7%	5.2%	8.1%	0.4%	
	無回答	73	15.1%	12.3%	5.5%	13.7%	12.3%	9.6%	2.7%	4.1%	15.1%	0.0%	
年代	20歳代	117	13.7%	6.8%	4.3%	12.8%	19.7%	15.4%	10.3%	6.0%	4.3%	6.8%	0.0%
	30歳代	227	13.7%	12.8%	3.1%	14.5%	19.4%	11.0%	9.3%	2.2%	4.8%	9.3%	0.0%
	40歳代	207	12.1%	17.4%	2.9%	13.0%	15.0%	7.7%	9.7%	4.3%	4.3%	12.1%	1.4%
	50歳代	231	15.6%	13.0%	4.3%	16.9%	16.5%	10.8%	7.8%	3.9%	4.3%	6.5%	0.4%
	60歳代	336	18.2%	9.5%	6.0%	11.6%	13.7%	9.5%	11.0%	6.8%	5.1%	8.6%	0.0%
	70歳以上	262	19.1%	7.6%	5.0%	14.9%	13.4%	9.5%	10.7%	7.3%	4.2%	8.4%	0.0%
	無回答	18	11.1%	16.7%	0.0%	11.1%	11.1%	22.2%	5.6%	5.6%	0.0%	16.7%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	304	14.5%	12.2%	3.6%	14.1%	17.8%	9.2%	9.9%	5.9%	4.6%	8.2%	0.0%
	山辺地区	288	19.1%	13.2%	4.2%	14.9%	13.5%	10.4%	8.3%	6.6%	3.5%	6.3%	0.0%
	大網地区	299	17.7%	11.0%	4.0%	14.7%	17.1%	9.7%	10.4%	3.7%	5.7%	6.0%	0.0%
	増穂地区	277	14.8%	10.1%	5.1%	13.4%	14.8%	9.4%	9.7%	4.0%	4.7%	13.0%	1.1%
	白里地区	215	12.6%	8.8%	5.6%	12.1%	15.3%	13.0%	11.6%	6.0%	4.2%	10.2%	0.5%
	無回答	15	6.7%	20.0%	0.0%	6.7%	6.7%	26.7%	0.0%	6.7%	0.0%	26.7%	0.0%

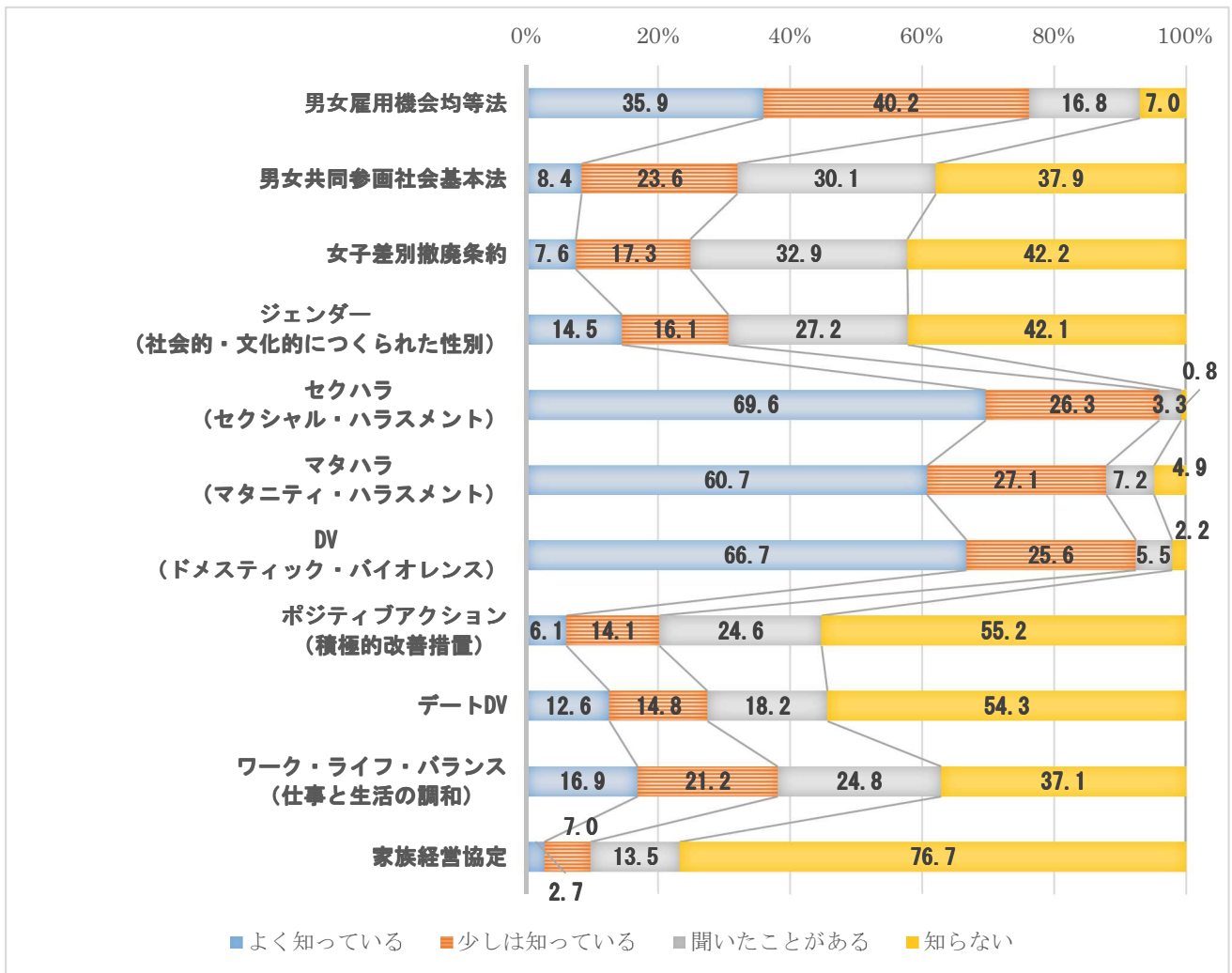


## 【男女共同参画用語について】

問15 あなたは、次の言葉を知っていますか。

『知っている』（「よく知っている」と「少しは知っている」の合計）が高いのは、「セクハラ（セクシャル・ハラスメント）」（95.9%）、「マタハラ（マタニティ・ハラスメント）」（87.8%）、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」（92.3%）、「男女雇用機会均等法」（76.1%）で、それ以外は、「知らない」と「聞いたことがある」の合計のほうが高い。

図表16 男女共同参画用語の認知度



### 【知っている（よく知っている・少しは知っている）の割合】

性別にみると、女性より男性の用語認知度が高いが、「マタハラ」、「DV」、「デートDV」に関しては、女性の認知度の方が高い。

年代別にみると、他世代と比べて、20歳代では「男女共同参画社会基本法」、「ジェンダー」、「DV」の認知度が高く、30歳代では「セクハラ」、「マタハラ」、「DV」、ポジティブアクション」、40歳代では「デートDV」、「ワーク・ライフ・バランス」、60歳代では「男女雇用機会均等法」、70歳以上では「女子差別撤廃条約」の認知度が高かった。

(単位：ポイント)

		男女雇用機会均等法	男女共同参画社会基本法	女子差別撤廃条約	ジェンダー	セクハラ	マタハラ	DV	ポジティブアクション	デートDV	ワーク・ライフ・バランス	家族経営協定
全体		76.1	32.0	24.9	30.6	95.9	87.8	92.3	20.2	27.4	38.1	9.7
性別	男性	82.7	37.3	25.6	32.9	96.3	88.1	92.3	21.2	22.8	40.2	10.0
	女性	71.1	28.0	23.8	28.9	95.5	88.4	93.3	18.1	30.1	36.7	8.6
年代	20歳代	73.8	52.3	27.9	50.0	97.7	88.4	97.6	13.9	23.3	41.9	4.7
	30歳代	69.4	21.2	25.0	39.0	100.0	96.5	97.6	23.6	27.4	36.5	8.3
	40歳代	78.7	28.0	18.7	31.5	94.6	82.7	96.0	18.7	36.0	49.3	10.6
	50歳代	76.1	23.9	22.7	32.9	95.5	89.7	96.6	21.8	29.1	39.1	11.4
	60歳代	79.1	33.9	24.6	24.3	96.8	87.6	93.4	18.3	24.7	34.9	6.7
	70歳以上	78.2	39.1	29.3	16.8	91.5	83.0	76.5	20.2	20.9	31.5	12.8
居住地区	瑞穂地区	78.7	37.4	26.2	31.1	95.4	88.9	93.5	30.8	33.0	43.5	9.2
	山辺地区	81.9	36.9	29.4	35.6	99.0	91.4	90.3	19.4	28.5	42.7	12.5
	大網地区	78.0	28.4	21.7	33.7	95.4	83.6	91.6	12.9	28.0	34.5	8.2
	増穂地区	70.6	23.6	20.8	28.8	98.0	91.2	93.2	21.0	22.8	28.7	7.9
	白里地区	69.9	31.3	24.7	20.0	90.3	84.3	92.7	13.5	21.9	40.2	9.8

※各属性において『知っている（よく知っている・少しは知っている）』を示している  
無回答は除く

## 【ドメスティック・バイオレンス（DV）について】

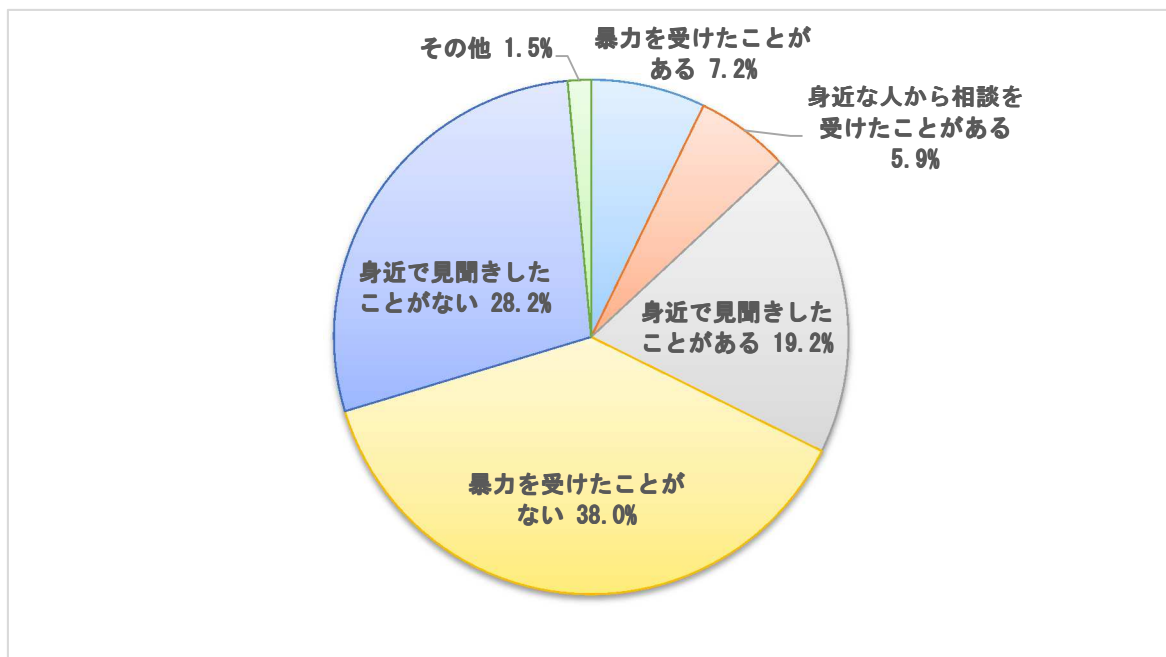
問16 あなたは、DV（夫婦、パートナーなどの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること）を経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。

### 【全体】

「暴力を受けたことがある」は7.2%で、「身近で見聞きしたことがある」は19.2%だった。

一方、「暴力を受けたことがない」は38.0%、「身近で見聞きしたことがない」は28.2%だった。

図表17 DVを経験したり見聞きしたことがある割合



## 【属性別】

性別にみると、「暴力を受けたことがある」は男性では3.9%だが、女性は10.2%だった。

年代別にみると、「暴力を受けたことがある」の割合が高いのは、60歳代（10.1%）、次いで30歳代（9.4%）だった。

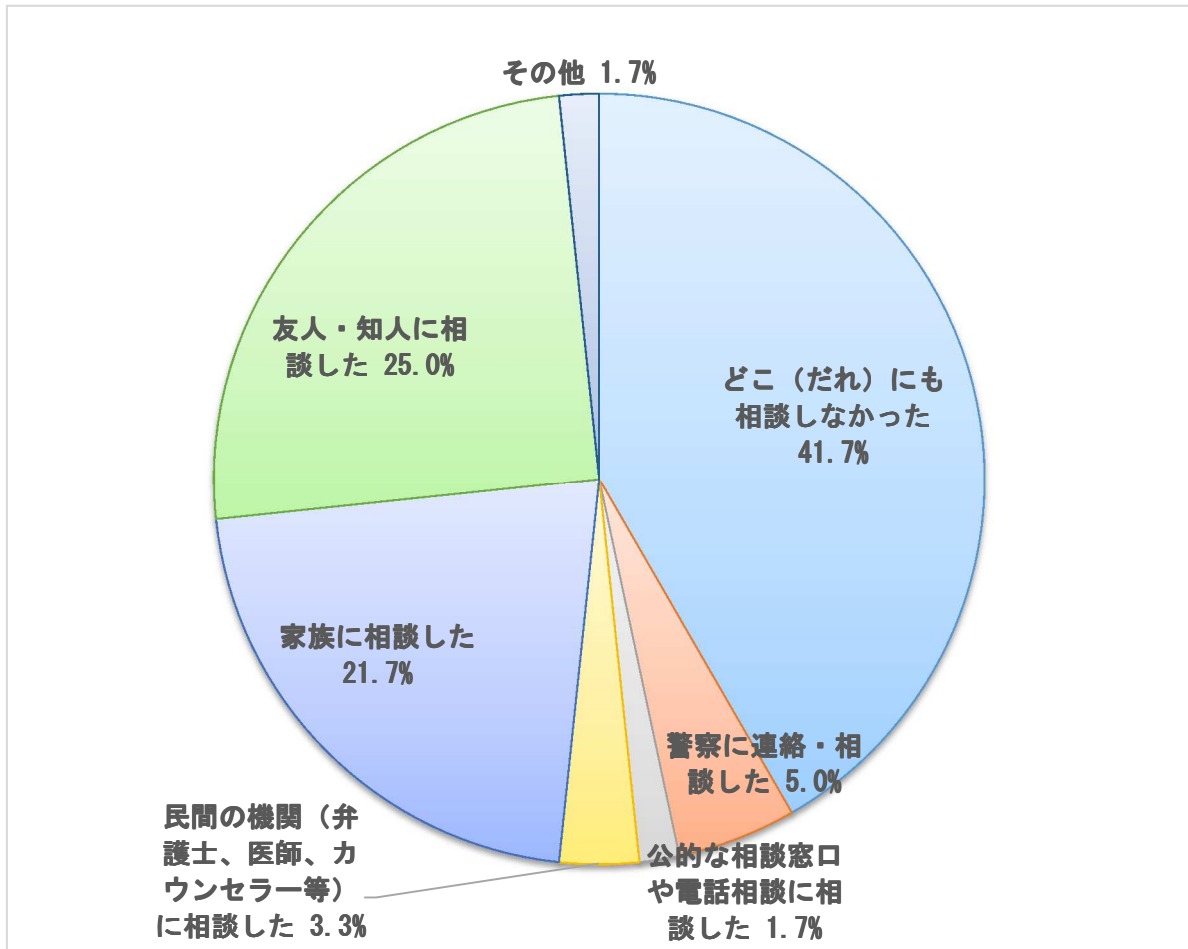
		回答合計	暴力を受けたことがある	身近な人から相談を受けたことがある	身近で見聞きしたことがある	暴力を受けたことがない	身近で見聞きしたことがない	その他
全体		681	7.2%	5.9%	19.2%	38.0%	28.2%	1.5%
性別	男性	285	3.9%	4.6%	17.2%	34.7%	37.9%	1.8%
	女性	364	10.2%	6.6%	19.8%	40.7%	21.7%	1.1%
	無回答	32	3.1%	9.4%	31.3%	37.5%	15.6%	3.1%
年代	20歳代	60	5.0%	5.0%	18.3%	38.3%	33.3%	0.0%
	30歳代	106	9.4%	7.5%	23.6%	34.9%	24.5%	0.0%
	40歳代	96	7.3%	3.1%	20.8%	39.6%	26.0%	3.1%
	50歳代	121	7.4%	8.3%	16.5%	38.0%	28.1%	1.7%
	60歳代	159	10.1%	4.4%	17.6%	38.4%	28.3%	1.3%
	70歳以上	132	3.0%	6.8%	17.4%	38.6%	31.8%	2.3%
	無回答	7	0.0%	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	163	9.2%	8.0%	22.1%	31.3%	27.6%	1.8%
	山辺地区	140	5.0%	5.0%	19.3%	39.3%	27.9%	3.6%
	大網地区	137	5.1%	2.2%	13.9%	46.0%	32.1%	0.7%
	増穂地区	132	8.3%	8.3%	18.9%	35.6%	28.8%	0.0%
	白里地区	105	8.6%	5.7%	21.9%	38.1%	24.8%	1.0%
	無回答	4	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%

問17 これまでに暴力を受けたことについて、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。

**【全体】**

「だれ（どこ）にも相談しなかった」が41.7%であり、「友人・知人に相談した」が25.0%、「家族に相談した」は21.7%、「警察に連絡・相談した」は5%だった。

図表18 暴力を受けたことを相談した場所



## 【属性別】

性別にみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性では76.9%だが、女性では33.3%である。

年代別にみると、30歳代では「友人・知人に相談した」が最も高い（42.9%）。

居住地区別にみると、大網地区では「家族に相談した」が最も高い（37.5%）。

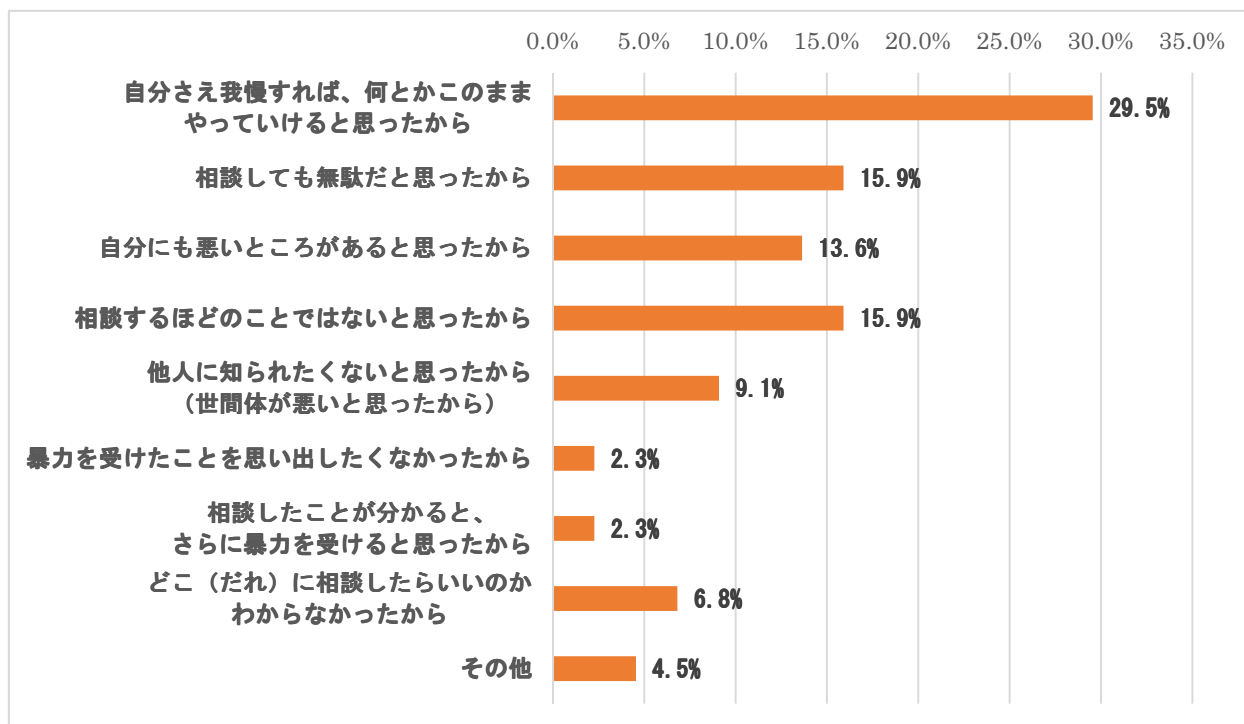
		回答合計	どこ（だれ）にも相談しなかった	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口や電話相談に相談した	民間の機関（弁護士、医師、カウンセラー等）に相談した	家族に相談した	友人・知人に相談した	その他
全体		60	41.7%	5.0%	1.7%	3.3%	21.7%	25.0%	1.7%
性別	男性	13	76.9%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%
	女性	45	33.3%	6.7%	2.2%	4.4%	22.2%	28.9%	2.2%
	無回答	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
年代	20歳代	3	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	30歳代	14	21.4%	14.3%	0.0%	0.0%	21.4%	42.9%	0.0%
	40歳代	10	50.0%	0.0%	10.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	50歳代	10	50.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	30.0%	0.0%
	60歳代	18	44.4%	5.6%	0.0%	5.6%	27.8%	11.1%	5.6%
	70歳以上	5	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	19	31.6%	10.5%	0.0%	0.0%	21.1%	36.8%	0.0%
	山辺地区	8	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	12.5%	0.0%
	大網地区	8	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	37.5%	25.0%	0.0%
	増穂地区	14	57.1%	0.0%	0.0%	7.1%	14.3%	21.4%	0.0%
	白里地区	11	45.5%	0.0%	9.1%	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%

問18 相談しなかった理由はなぜですか。

**【全体】**

「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が最も高く(29.5%)、次いで「相談しても無駄だと思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」がそれぞれ15.9%となっている。

図表19 相談しなかった理由



## 【属性】

性別にみると、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」は男性では41.2%であるが、女性では22.2%となっている。また、次点では、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」(23.5%)であるが、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」(18.5%)となっている。

		回答合計	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	相談しても無駄だと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	他人に知られたくないと思ったから (世間体が悪いと思ったから)	暴力を受けたことを思い出さなく なかつたから	相談したことが分かると、さらに暴力を 受けると思ったから	どこ(だれ)に相談したらいいのか わからなかつたから	その他
全体		44	29.5%	15.9%	13.6%	15.9%	9.1%	2.3%	2.3%	6.8%	4.5%
性別	男性	17	41.2%	17.6%	23.5%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
	女性	27	22.2%	14.8%	7.4%	18.5%	14.8%	3.7%	3.7%	7.4%	7.4%
年代	20歳代	4	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	30歳代	6	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	9	33.3%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%
	50歳代	9	22.2%	22.2%	22.2%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	12	41.7%	8.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%
	70歳以上	4	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	12	25.0%	16.7%	16.7%	16.7%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%
	山辺地区	9	33.3%	22.2%	0.0%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%
	大網地区	4	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	増穂地区	13	23.1%	15.4%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%
	白里地区	6	33.3%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%

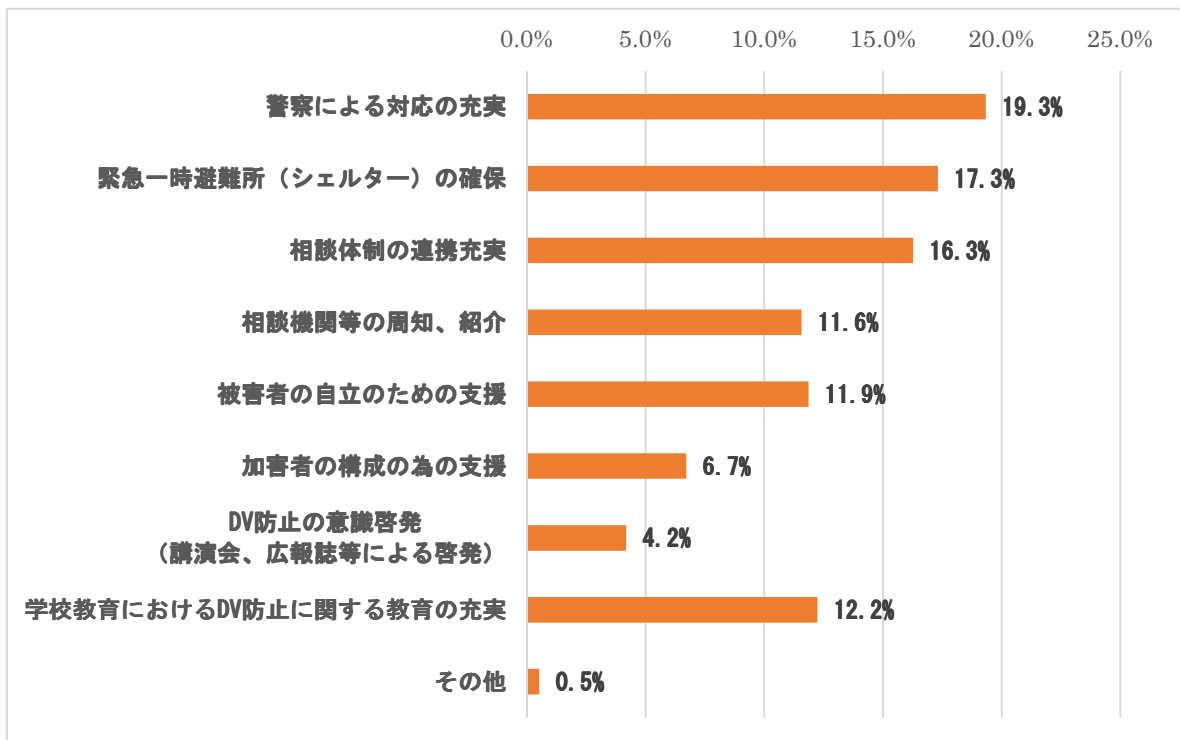


問19 DVについて、今後、行政に対してどのような対応等を望みますか。

**【全体】**

「警察による対応の充実」が最も高く（19.3%）、次いで「緊急一時避難所（シェルター）の確保」（17.3%）、「相談体制の連携充実」（16.3%）となっている。

図表20 行政に対して望むDVへの対応



## 【属性別】

性別にみると、男性では「警察による対応の充実」が最も高く（22.0%）、次いで「相談体制の連携充実」（17.8%）となっているが、女性では「緊急一時避難所（シェルター）の確保」が最も高く（19.3%）、次いで「警察による対応の充実」（16.8%）となっている。

		回答合計	警察による対応の充実	緊急一時避難所（シェルター）の確保	相談体制の連携充実	相談機関等の周知、紹介	被害者の自立のための支援	加害者の構成の為に支援	DV防止の意識啓発（講演会、広報誌等による啓発）	学校教育におけるDV防止に関する教育の充実	その他
全体		1340	19.3%	17.3%	16.3%	11.6%	11.9%	6.7%	4.2%	12.2%	0.5%
性別	男性	572	22.0%	14.3%	17.8%	11.5%	10.7%	5.9%	5.4%	11.5%	0.7%
	女性	709	16.8%	19.3%	15.7%	11.6%	13.1%	7.2%	3.1%	12.8%	0.4%
	無回答	59	23.7%	22.0%	8.5%	11.9%	8.5%	8.5%	5.1%	11.9%	0.0%
年代	20歳代	120	21.7%	19.2%	18.3%	10.0%	6.7%	11.7%	5.8%	6.7%	0.0%
	30歳代	218	22.0%	20.2%	16.1%	7.3%	13.3%	9.2%	1.8%	9.6%	0.5%
	40歳代	196	18.9%	18.4%	17.3%	11.2%	12.2%	7.7%	2.6%	11.2%	0.5%
	50歳代	228	15.8%	19.7%	16.2%	12.3%	13.2%	8.3%	3.5%	10.1%	0.9%
	60歳代	319	18.5%	18.2%	14.1%	11.9%	12.9%	3.8%	6.3%	14.1%	0.3%
	70歳以上	241	19.9%	9.1%	18.3%	15.4%	10.4%	3.7%	4.6%	17.8%	0.8%
	無回答	18	27.8%	22.2%	5.6%	11.1%	11.1%	5.6%	5.6%	11.1%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	295	19.3%	15.6%	16.9%	13.6%	10.8%	6.8%	4.7%	11.9%	0.3%
	山辺地区	278	15.5%	17.3%	16.9%	11.9%	10.8%	7.9%	4.7%	14.7%	0.4%
	大網地区	292	18.5%	20.5%	16.4%	9.9%	12.7%	8.2%	2.7%	10.6%	0.3%
	増穂地区	263	22.8%	19.0%	12.9%	12.5%	12.2%	4.9%	4.2%	10.3%	1.1%
	白里地区	198	21.2%	12.6%	19.2%	9.6%	13.1%	5.1%	4.5%	14.1%	0.5%
	無回答	14	21.4%	21.4%	7.1%	7.1%	14.3%	7.1%	7.1%	14.3%	0.0%

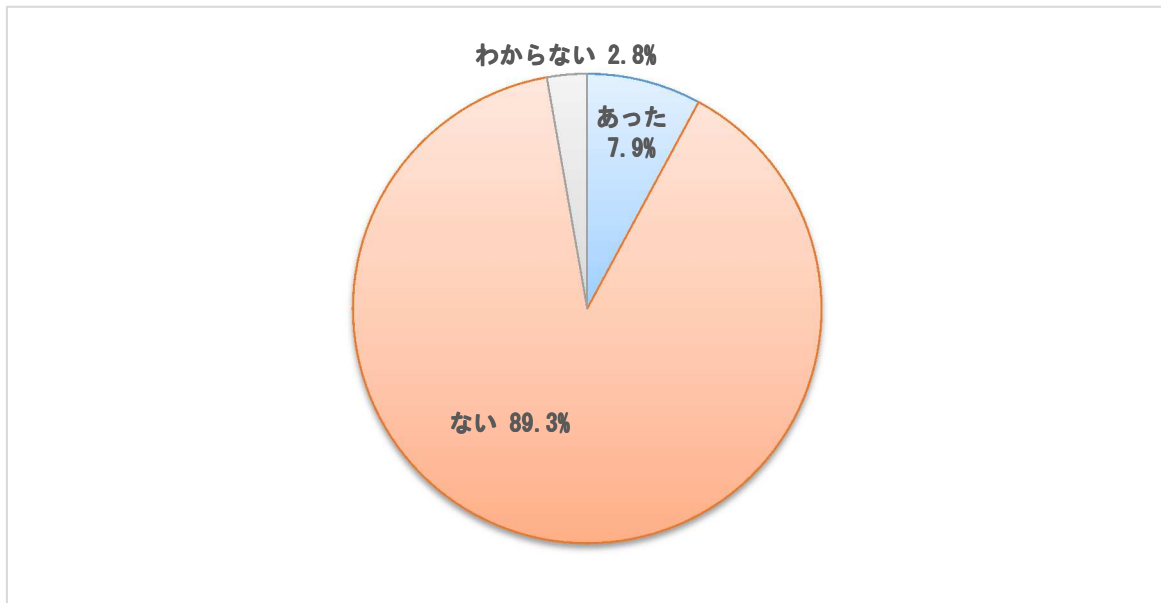
### 【ストーカー行為について】

問20 あなたはこれまでに、ストーカー（つきまとい、電話、メール等）の被害にあったことがありますか。

#### 【全体】

「あった」は7.9%、「ない」は89.3%、「わからない」は2.8%であった。

図表21 ストーカー被害の割合



## 【属性別】

性別にみると、「あった」は男性では4.1%、女性では10.8%であった。  
年代別では、「あった」が最も高いのは、40歳代（16.0%）であった。

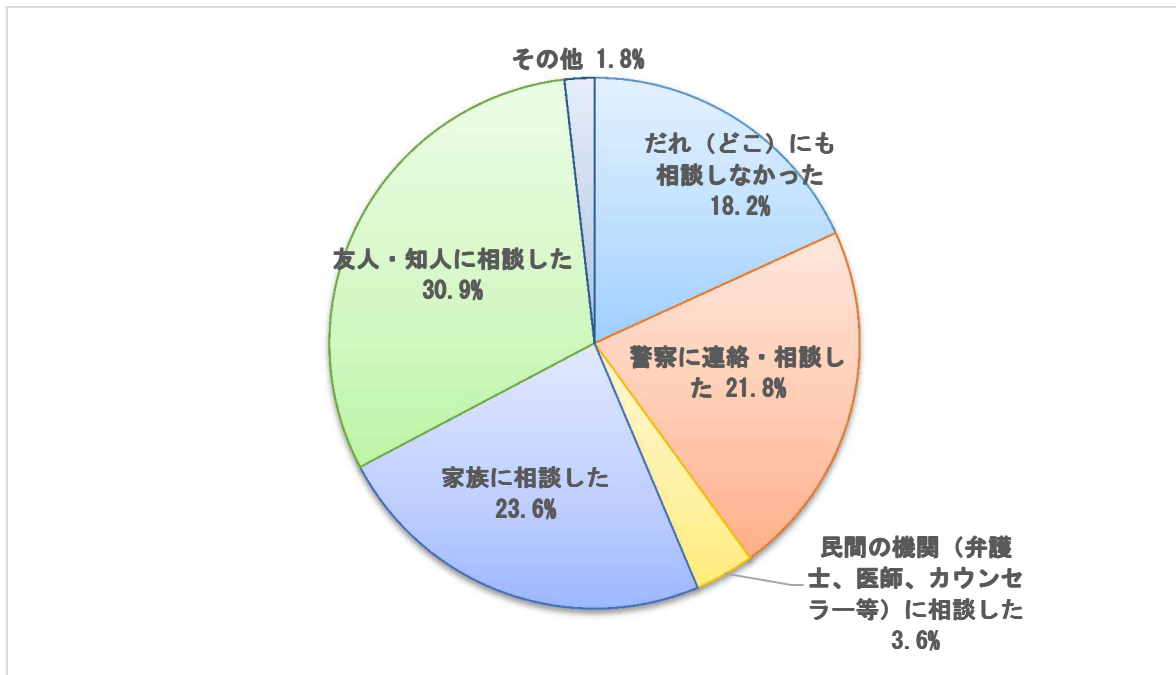
		回答合計	あった	ない	わからない
全体		507	7.9%	89.3%	2.8%
性別	男性	218	4.1%	93.6%	2.3%
	女性	268	10.8%	86.2%	3.0%
	無回答	21	9.5%	85.7%	4.8%
年代	20歳代	44	4.5%	93.2%	2.3%
	30歳代	84	11.9%	82.1%	6.0%
	40歳代	75	16.0%	81.3%	2.7%
	50歳代	87	9.2%	89.7%	1.1%
	60歳代	122	2.5%	95.1%	2.5%
	70歳以上	90	4.4%	93.3%	2.2%
	無回答	5	20.0%	80.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	108	11.1%	83.3%	5.6%
	山辺地区	104	4.8%	91.3%	3.8%
	大網地区	108	3.7%	95.4%	0.9%
	増穂地区	100	9.0%	88.0%	3.0%
	白里地区	83	10.8%	89.2%	0.0%
	無回答	4	25.0%	75.0%	0.0%

問 2 1 これまでにストーカー行為について、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。

**【全体】**

「友人・知人に相談した」が最も高く（30.9%）、次いで「家族に相談した」（23.6%）、「警察に連絡・相談した」（21.8%）だった。「公的な相談窓口や電話相談に相談した」は回答がなかった。

図表 2 2 ストーカー行為について相談した場所



## 【属性別】

性別にみると、男性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」と「警察に連絡・相談した」が最も高く（25.0%）、女性では「友人・知人に相談した」が最も高く（34.1%）、次いで「家族に相談した」（26.8%）であった。

		回答合計	どこ（だれ）にも相談しなかった	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口や電話相談に相談した	民間の機関（弁護士、医師、カウンセラー等）に相談した	家族に相談した	友人・知人に相談した	その他
全体		55	18.2%	21.8%	0.0%	3.6%	23.6%	30.9%	1.8%
性別	男性	12	25.0%	25.0%	0.0%	8.3%	16.7%	16.7%	8.3%
	女性	41	17.1%	19.5%	0.0%	2.4%	26.8%	34.1%	0.0%
	無回答	2	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
年代	20歳代	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	13	30.8%	7.7%	0.0%	0.0%	23.1%	38.5%	0.0%
	40歳代	19	10.5%	26.3%	0.0%	0.0%	31.6%	31.6%	0.0%
	50歳代	13	7.7%	23.1%	0.0%	7.7%	15.4%	38.5%	7.7%
	60歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上	4	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	無回答	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	17	23.5%	29.4%	0.0%	5.9%	11.8%	23.5%	5.9%
	山辺地区	8	12.5%	25.0%	0.0%	12.5%	25.0%	25.0%	0.0%
	大網地区	6	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	増穂地区	13	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	30.8%	53.8%	0.0%
	白里地区	10	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	無回答	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

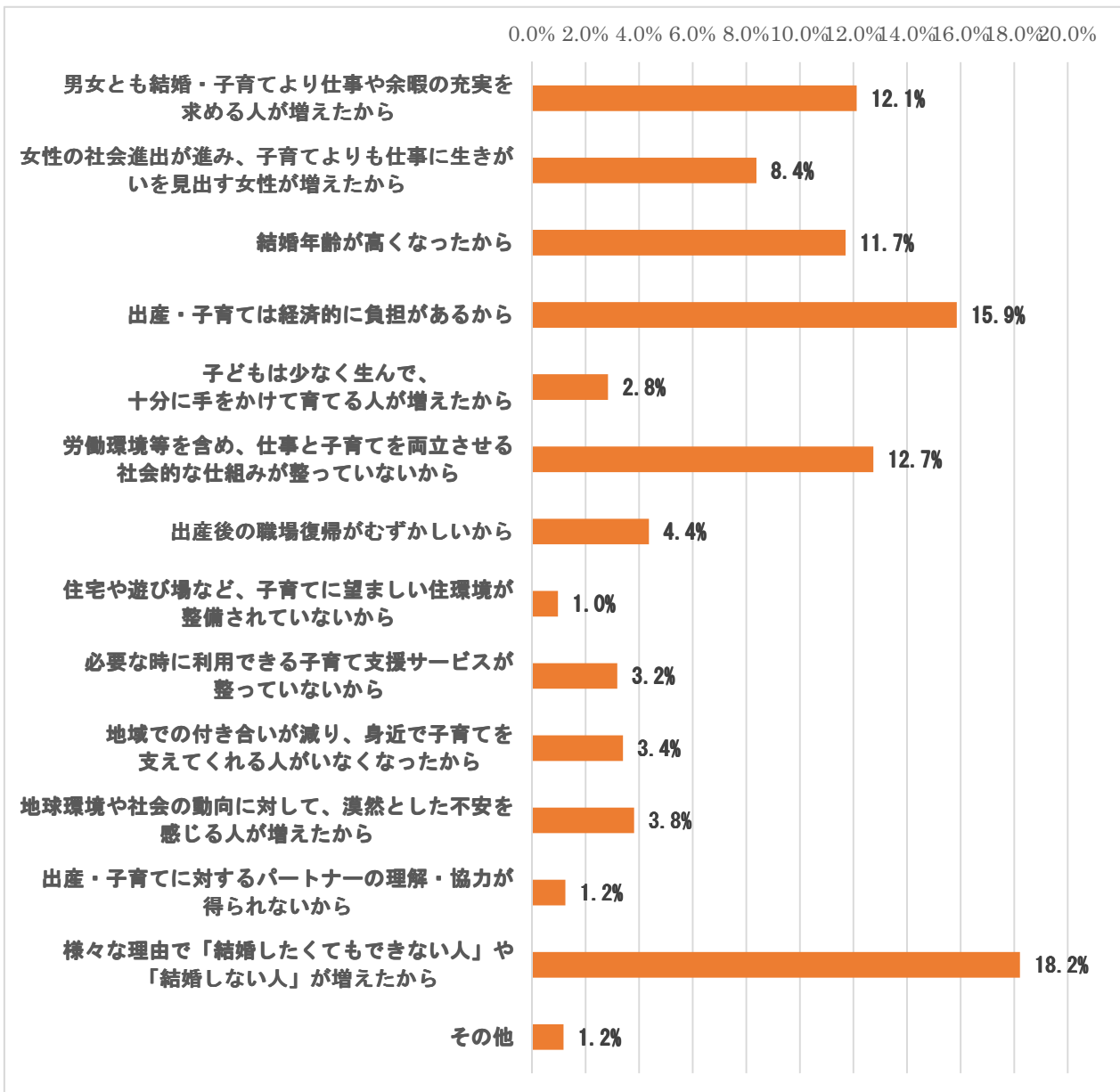
## 【少子化対策について】

問 2 2 出生率が低くなった主な要因として何が考えられると思いますか。

### 【全体】

「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」が最も高く（18.2%）、次いで「出産・子育ては経済的に負担があるから」が15.9%、「労働環境等を含め、仕事と子育てを両立させる社会的な仕組みが整っていないから」が12.7%であった。

図表 2 3 出生率が低くなったと考えられる理由



## 【属性別】

性別にみると、男性では「出産・子育ては経済的に負担があるから」が最も高く（17.9%）、次いで「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」（17.4%）となっている。女性では、「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」が最も高く（19.0%）、次いで「出産・子育ては経済的に負担があるから」（14.4%）となっている。

年代別では、20歳代から40歳代では「出産・子育ては経済的に負担があるから」が最も高く、50歳代から70歳以上は「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」が最も高い。

		回答合計	男女とも結婚・子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから	女性の社会進出が進み、子育てよりも仕事に生きがいを見出す女性が増えたから	結婚年齢が高くなったから	出産・子育ては経済的に負担があるから	子どもは少なく生んで、十分に手をかけて育てる人が増えたから	労働環境等を含め、仕事と子育てを両立させる社会的な仕組みが整っていないから	出産後の職場復帰がむずかしいから
全体		1444	12.1%	8.4%	11.7%	15.9%	2.8%	12.7%	4.4%
性別	男性	619	12.4%	8.6%	10.2%	17.9%	2.9%	12.8%	3.6%
	女性	756	11.8%	7.8%	13.2%	14.4%	2.9%	13.0%	4.8%
	無回答	69	13.0%	13.0%	8.7%	13.0%	1.4%	10.1%	7.2%
年代	20歳代	121	12.4%	7.4%	12.4%	24.8%	0.0%	13.2%	3.3%
	30歳代	235	9.8%	7.2%	15.7%	22.6%	2.1%	9.4%	5.1%
	40歳代	209	13.4%	9.6%	11.5%	19.1%	3.3%	12.0%	3.8%
	50歳代	246	14.2%	8.5%	10.6%	15.4%	2.8%	13.4%	4.5%
	60歳代	348	10.9%	8.6%	10.3%	11.8%	4.3%	14.1%	4.0%
	70歳以上	270	13.0%	8.9%	11.1%	9.6%	2.6%	13.3%	4.4%
	無回答	15	6.7%	0.0%	6.7%	6.7%	0.0%	20.0%	13.3%
居住地区	瑞穂地区	304	11.8%	10.2%	10.9%	14.5%	0.7%	12.8%	3.6%
	山辺地区	297	12.5%	9.1%	13.1%	15.2%	4.0%	12.5%	2.7%
	大網地区	309	12.9%	8.4%	13.6%	14.9%	3.2%	12.9%	4.9%
	増穂地区	290	11.4%	6.9%	10.0%	19.3%	3.1%	14.1%	4.5%
	白里地区	232	12.5%	6.9%	11.2%	15.9%	3.4%	11.2%	6.0%
	無回答	12	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	16.7%



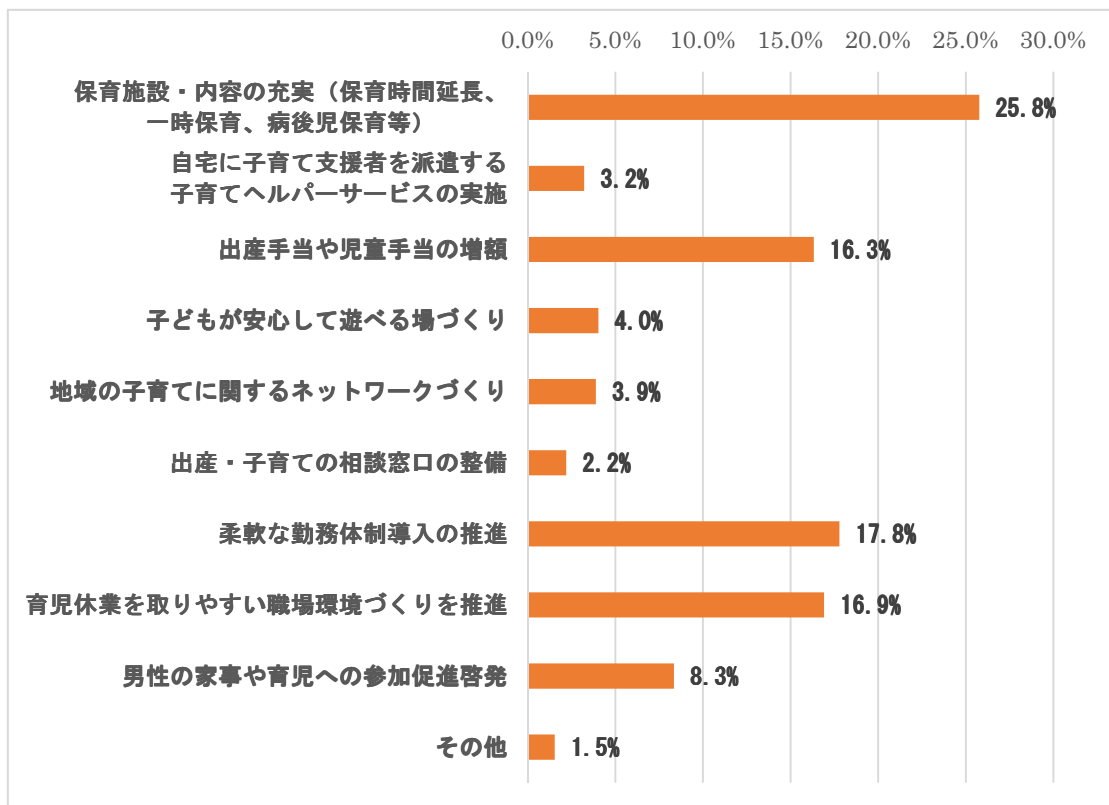
		回答合計	住宅や遊び場など、子育てに望ましい 住環境が整備されていないから	必要な時に利用できる子育て支援 サービスが整っていないから	地域での付き合いが減り、身近で子育てを 支えてくれる人がいなくなったから	地球環境や社会の動向に対して、漠然とし た不安を感じる人が増えたから	出産・子育てに対するパートナーの理解・ 協力が得られないから	様々な理由で「結婚したくてもできない 人」や「結婚しない人」が増えたから	その他
全体		1444	1.0%	3.2%	3.4%	3.8%	1.2%	18.2%	1.2%
性別	男性	619	1.3%	3.4%	4.0%	3.1%	0.6%	17.4%	1.8%
	女性	756	0.7%	2.8%	3.2%	4.2%	1.6%	19.0%	0.7%
	無回答	69	1.4%	5.8%	0.0%	5.8%	2.9%	15.9%	1.4%
年代	20歳代	121	0.0%	3.3%	2.5%	3.3%	1.7%	14.9%	0.8%
	30歳代	235	1.3%	3.0%	3.0%	4.3%	0.9%	14.0%	1.7%
	40歳代	209	0.0%	3.8%	3.3%	4.8%	1.4%	12.0%	1.9%
	50歳代	246	0.4%	3.3%	2.0%	3.7%	1.2%	19.9%	0.0%
	60歳代	348	0.9%	2.9%	4.9%	3.2%	1.1%	21.6%	1.4%
	70歳以上	270	2.2%	2.6%	3.7%	3.7%	1.5%	22.2%	1.1%
	無回答	15	6.7%	13.3%	0.0%	6.7%	0.0%	20.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	304	2.0%	4.3%	3.3%	3.0%	2.0%	19.7%	1.3%
	山辺地区	297	0.3%	2.7%	4.4%	3.4%	2.0%	17.2%	1.0%
	大網地区	309	0.3%	2.7%	4.4%	3.4%	0.0%	16.8%	1.9%
	増穂地区	290	1.0%	2.8%	2.8%	5.5%	1.4%	16.6%	0.7%
	白里地区	232	0.9%	2.2%	3.4%	3.0%	0.9%	21.6%	0.9%
	無回答	12	8.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	16.7%	0.0%

問 2 3 出生率を上げるために行政が推進すべき施策として何が必要だと思いますか。

**【全体】**

「保育施設・内容の充実（保育時間延長、一時保育、病後児保育等）」が最も高く（25.8%）、次いで「柔軟な勤務体制導入の推進」（17.8%）、「育児休業を取りやすい職場環境づくりを推進」（16.9%）、「出産手当や児童手当の増額」（16.3%）となっている。

**図表 2 4 出生率を上げるために推進すべき施策**



## 【属性別】

性別でみると、男性は「保育施設・内容の充実（保育時間延長、一時保育、病後児保育等）」が最も高く（25.6%）、次いで「出産手当や児童手当の増額」（20.4%）となっている。女性は「保育施設・内容の充実（保育時間延長、一時保育、病後児保育等）」が最も高く（26.2%）、次いで「柔軟な勤務体制導入の推進」（18.6%）となっている。

年代別でみると、20歳代では「出産手当や児童手当の増額」が最も高い（29.6%）が、そのほかは「保育施設・内容の充実（保育時間延長、一時保育、病後児保育等）」が最も高くなっている。

		回答合計	保育施設・内容の充実（保育時間延長、一時保育、病後児保育等）	子育てヘルパーサービスの実施 自宅に子育て支援者を派遣する	出産手当や児童手当の増額	子どもが安心して遊べる場づくり	地域の子育てに関するネットワークづくり	出産・子育ての相談窓口の整備	柔軟な勤務体制導入の推進	育児休業を取りやすい職場環境づくりを推進	男性の家事や育児への参加促進啓発	その他
全体		1366	25.8%	3.2%	16.3%	4.0%	3.9%	2.2%	17.8%	16.9%	8.3%	1.5%
性別	男性	589	25.6%	2.4%	20.4%	2.9%	3.4%	2.9%	17.3%	17.0%	6.3%	1.9%
	女性	711	26.2%	3.5%	13.4%	4.5%	3.8%	1.5%	18.6%	17.3%	10.1%	1.1%
	無回答	66	22.7%	7.6%	12.1%	9.1%	9.1%	3.0%	13.6%	12.1%	7.6%	3.0%
年代	20歳代	115	17.4%	2.6%	29.6%	2.6%	3.5%	0.9%	17.4%	18.3%	7.8%	0.0%
	30歳代	233	24.0%	2.6%	21.0%	6.4%	2.6%	1.3%	17.6%	17.2%	6.9%	0.4%
	40歳代	190	24.7%	3.7%	18.4%	4.7%	1.1%	1.6%	17.4%	18.4%	6.3%	3.7%
	50歳代	230	27.4%	3.0%	11.3%	3.0%	3.9%	1.3%	24.3%	15.2%	8.7%	1.7%
	60歳代	319	28.8%	3.4%	13.5%	2.5%	4.4%	3.1%	16.9%	16.0%	9.4%	1.9%
	70歳以上	262	27.5%	2.7%	12.6%	4.2%	5.3%	3.8%	14.1%	18.3%	10.3%	1.1%
	無回答	17	11.8%	17.6%	17.6%	11.8%	23.5%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	296	28.0%	3.7%	16.2%	2.7%	3.4%	1.0%	18.6%	17.2%	8.4%	0.7%
	山辺地区	277	27.1%	4.0%	13.7%	5.8%	4.3%	1.4%	19.5%	15.2%	6.5%	2.5%
	大網地区	290	25.5%	2.8%	17.9%	3.1%	3.8%	1.0%	20.0%	17.6%	7.2%	1.0%
	増穂地区	271	26.2%	2.2%	16.6%	3.3%	3.0%	4.1%	14.8%	18.8%	9.6%	1.5%
	白里地区	220	22.3%	2.7%	17.3%	5.0%	4.1%	4.1%	15.5%	16.4%	10.9%	1.8%
	無回答	12	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	25.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%

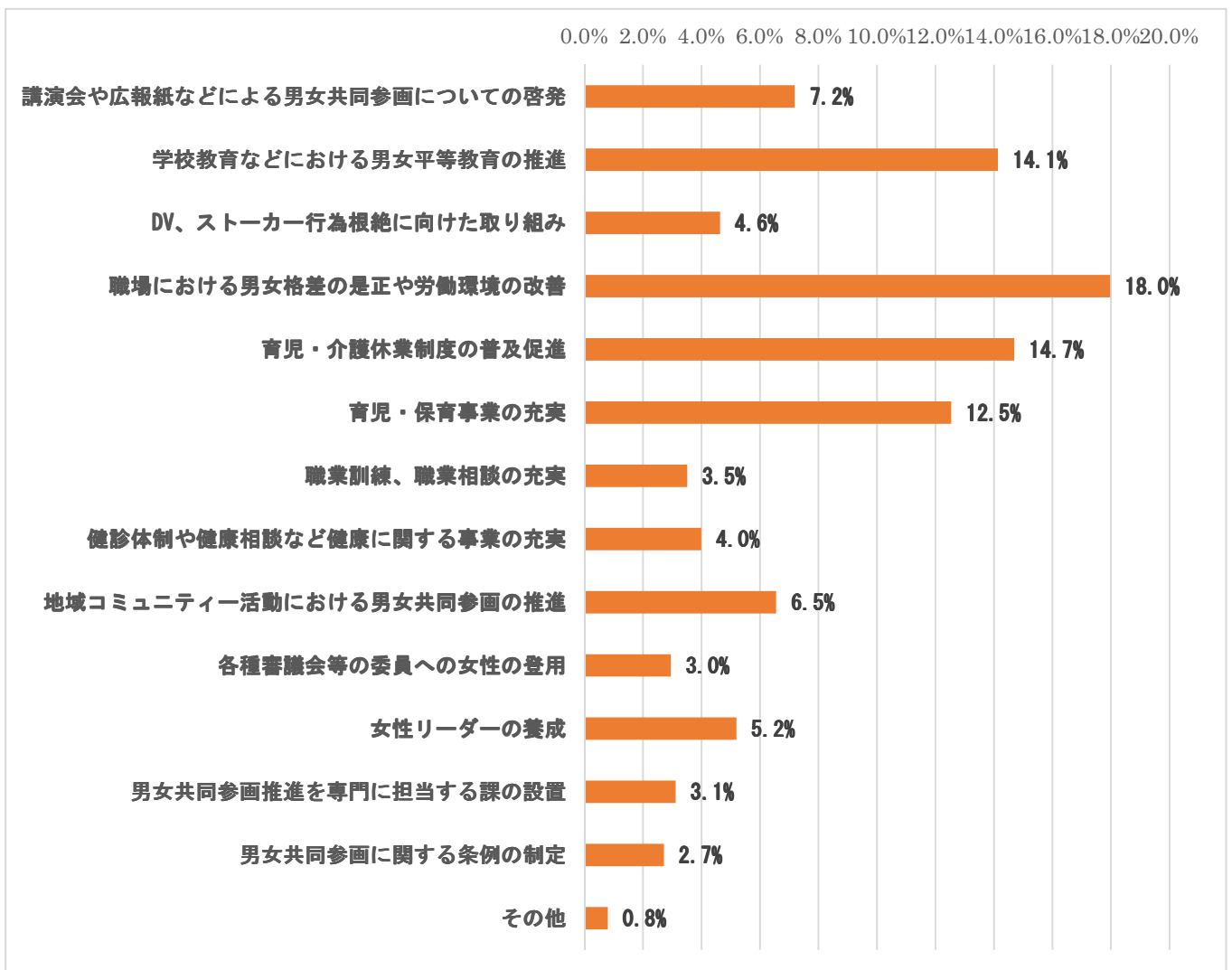
## 【男女共同参画社会に向けての取り組みについて】

問 2 4 「男女共同参画社会」を実現するために、市の施策に望むことは何ですか。

### 【全体】

「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が最も高く（18.0%）、次いで「育児・介護休業制度の普及促進」（14.7%）、「学校教育などにおける男女平等教育の推進」（14.1%）となっている。

図表 2 5 男女共同参画社会実現のための施策



## 【属性別】

性別でみると、男性は「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が最も高く（17.1%）、次いで「学校教育などにおける男女平等教育の推進」（14.8%）となっている。女性は「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が最も高く（19.2%）、次いで「育児・介護休業制度の普及促進」（15.3%）となっている。

年代別にみると、50歳代で「育児・介護休業制度の普及促進」が最も高い（17.3%）ほかは、「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が最も高くなっている。

居住地区別にみると、山辺地区で「育児・介護休業制度の普及促進」が最も高い（16.9%）ほかは、「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が最も高くなっている。

		回答合計	講演会や広報紙などによる 男女共同参画についての啓発	学校教育などにおける 男女平等教育の推進	DV、ストーカー行為根絶に 向けた取り組み	職場における男女格差の 是正や労働環境の改善	育児・介護休業制度の普及促進	育児・保育事業の充実	職業訓練、職業相談の充実
全体		1252	7.2%	14.1%	4.6%	18.0%	14.7%	12.5%	3.5%
性別	男性	554	6.9%	14.8%	4.9%	17.1%	14.1%	13.4%	3.1%
	女性	639	7.7%	13.9%	4.1%	19.2%	15.3%	11.7%	3.6%
	無回答	59	5.1%	10.2%	8.5%	11.9%	13.6%	13.6%	6.8%
年代	20歳代	102	2.0%	11.8%	9.8%	19.6%	17.6%	14.7%	4.9%
	30歳代	197	3.0%	12.2%	4.1%	18.8%	17.3%	21.8%	3.6%
	40歳代	172	4.1%	13.4%	3.5%	20.3%	14.5%	15.1%	3.5%
	50歳代	214	8.9%	14.5%	4.7%	16.8%	17.3%	11.7%	2.8%
	60歳代	308	10.1%	14.6%	4.5%	18.8%	11.4%	8.4%	3.9%
	70歳以上	244	9.8%	16.4%	3.7%	15.6%	13.1%	8.2%	2.9%
	無回答	15	6.7%	13.3%	6.7%	6.7%	20.0%	13.3%	6.7%
居住地区	瑞穂地区	277	6.9%	16.6%	2.2%	22.4%	15.5%	12.3%	1.8%
	山辺地区	260	8.8%	16.9%	6.5%	16.5%	12.7%	12.3%	3.1%
	大網地区	269	8.9%	13.8%	4.1%	15.2%	14.5%	13.4%	2.6%
	増穂地区	239	5.0%	12.1%	4.6%	20.1%	16.3%	12.6%	7.5%
	白里地区	197	5.6%	9.6%	6.1%	15.7%	14.7%	12.7%	2.5%
	無回答	10	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%

		回答合計	健診体制や健康相談など 健康に関する事業の充実	地域コミュニティ活動における 男女共同参画の推進	各種審議会等の委員への女性の登用	女性リーダーの養成	男女共同参画推進を専門に 担当する課の設置	男女共同参画に関する条例の制定	その他
	全体	1252	4.0%	6.5%	3.0%	5.2%	3.1%	2.7%	0.8%
性別	男性	554	2.7%	8.5%	3.6%	4.5%	2.3%	3.1%	1.1%
	女性	639	4.5%	5.2%	2.5%	5.6%	3.6%	2.3%	0.6%
	無回答	59	10.2%	3.4%	1.7%	6.8%	5.1%	3.4%	0.0%
年代	20歳代	102	6.9%	1.0%	2.0%	4.9%	3.9%	1.0%	0.0%
	30歳代	197	2.5%	6.1%	0.5%	4.1%	2.5%	2.5%	1.0%
	40歳代	172	4.1%	3.5%	1.2%	6.4%	4.7%	3.5%	2.3%
	50歳代	214	2.3%	9.3%	1.4%	4.7%	2.3%	2.8%	0.5%
	60歳代	308	3.9%	8.8%	5.5%	5.2%	2.6%	1.3%	1.0%
	70歳以上	244	5.3%	6.6%	4.9%	5.7%	3.3%	4.5%	0.0%
	無回答	15	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	277	2.9%	5.1%	3.2%	4.3%	3.6%	2.9%	0.4%
	山辺地区	260	3.1%	8.1%	2.3%	4.2%	2.3%	1.5%	1.5%
	大網地区	269	6.7%	5.9%	2.6%	5.6%	2.2%	4.1%	0.4%
	増穂地区	239	3.8%	6.3%	2.9%	3.3%	3.3%	2.1%	0.0%
	白里地区	197	3.0%	8.1%	4.1%	9.1%	4.1%	2.5%	2.0%
	無回答	10	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%

問25 「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、感じていることなど、なんでも結構ですので自由に記入してください。

### 【自由意見（主なもの）】

※趣旨に変更を加えない範囲で加筆・修正しています。

#### （1）男女共同参画社会全般について

- ◆テーマ的に広範囲なものなので取り組みは難しいと思いますが、可能なところから実施していくことが、全体的な前進につながるのではないのでしょうか。努力は報われると思います。【性別不詳 70歳以上】
- ◆男性と女性は本質的に違います。違うという事をふまえて、考えていかなければいけない。平等とはなんでも半分にするのではないはず。保育所を増やすこと、などよく言われていますが、全て大人の都合。子供が安心して過ごすことができる場所（家庭）がないと子供の心は育たないと思います。【女性 40歳代】
- ◆男女を問わず指導力のある者は会社及び地域で自ら実力を発揮し活動してほしい。【男性 70歳以上】
- ◆「男女共同参画社会」は本当に理想か。そのような社会を目指すべきか。「個人の尊厳を尊重できる社会」が理想では。【男性 60歳代】
- ◆まちづくりで「男女共同参画社会」を推進していただけることはありがたいです。ただ、一番大切な事は、みんなの意識を変えていくことだと思っています。少しずつ良い方向へ向かっていきたい。【女性 50歳代】
- ◆基本的に「男は仕事、女は家庭」という考えですが、今の社会は共働きの家庭も多く、なかなかそうも言えないので、男女共に職場において、育児、出産、介護休暇の制度の整備が必要だと思う。【男性 50歳代】
- ◆法律や制度が整っても、人々の意識が変わらないと何も変わらない。結婚する時も、法的には「どちらかの姓を選択」とあり、男の姓とは決まっていけないものの、女性の姓を選択しようとする「婿になるのは」と、昔ながらの家制度が未だに意識を支配している。新しい制度もせっかく介護等利用できるものがあるのに年寄りによっては、“知らない人を家に入れたくない”との事で、結局家族の負担を大きくするなど、子供達等学校教育よりも、年配者達への意識改革が必要だと思う。【女性 50歳代】

- ◆男女共同、平等でなければなりません。人間の体、脳はそれぞれ違うようですので無理に何でも平等にせず、男性の脳・体力、女性の脳・体力に合った事柄にてお互いの持てる力を協力し合うことが大事だと思います。女性の私ではありますが、昨今女性に気を使っているように感じます。男がしなければ、女がしなければならぬと決めかねずお互いが思いやり出来ることをする様にして、いろいろなことに参画していったらよいと思います。【女性 60 歳代】
- ◆「何でもかんでも男女平等の社会に」というのではなく、男性・女性の特性を見極めて役割分担をしていくことが大事だと思います。それには一人一人が「女だから」という甘えや逃げ、「男の意見には従うべき」などという上から目線や押しつけは捨て、男性・女性が忌憚なく意見を出し合い、補い助け合いながら生活していける社会、大網白里市を目指してほしいと思います。【女性 60 歳代】
- ◆何でも男女平等という考え方には賛成しかねる。男性・女性の体力、個性等々お互いに認め合い尊重し合って作り上げる社会を実現することが大切。【男性 70 歳以上】
- ◆男尊女卑社会が現存しているのが実態である。女性が進出できるためには、家族、企業（職場）が支援する体制を造ることがまず必要となる。一方女性自身が自立（能力、財力等）できる環境整備も欠かせないと考えます。【男性 70 歳以上】
- ◆女性が近隣の区・自治会における役員として参加する意識の醸成が必要であり、今まではともすればそのような役員は男性になることが当然とされてきた。そのようなところでは強力なリーダーシップを図るのは女性では無理との風潮はいまだにある。そのためには女性の意識の改善を図り、積極的な参加により自信を深め他の女性にも参加を働きかけるような女性リーダーの養成が必要と思われる。【男性 70 歳以上】
- ◆女性と男性とが同じような環境で同じように生活するように行政が働きかければ、少子化は解決しないのではないのでしょうか。次の世代を残すのは本能だったはずではないかと。昔からあった家事・育児を女性から切り離してパート女性の経済効率力に頼る社会の仕組みは、古くから受け継がれてきた衣食住にかかわる文化を軽視しているように思われます。もったいない話です。中には、男性と同等に働きたい女性もいますが。【女性 60 歳代】
- ◆国レベルでの法整備と雇用主、企業など職場における理解と環境づくり。一人ひとり（個人レベル）の今までとは違う意識と理解の底上げ等総合的に整備されれば男女ともに暮らしやすい社会になっていくのではないのでしょうか。【女性 40 歳代】



## (2) 職場・労働環境について

- ◆介護の現場では圧倒的に女性が多いが男性の平均年収とくらべると低すぎると思う。男性が介護業界で仕事を続けられない理由と思う。結婚して子供を育てられる稼ぎではないから。まだまだ女性が家事育児を担う環境は変わっていない。【女性 40歳代】
  
- ◆男性は仕事が忙しすぎる。家庭において、家事・育児を分担して社会に女性が進出しやすくなるとよいと思う。【女性 60歳代】
  
- ◆専業主婦やパート労働者の中に能力の高い女性がかかりうもれているように感じている。コンビニの主婦のパートさんの働きぶりをみるとそれがよくわかる。挨拶の仕方や声掛け、細かい気配りなどかなり高いレベルのサービスを提供できる人材が多い。それらの人たちがパートという雇用形態を選択しているのには家事、子育てなどさまざまな理由があると考えられるが、そこに女性人材活用のヒントがあるように思う。個人個人に合った勤務時間、勤務形態を選択できる環境、そしてそれがパートという社会的に保障されにくい立場ではなく将来的にリーダーとなることも可能な立場として保障されること、つまり女性の雇用の在り方、社会的なサポートの仕方を再検討する必要があるように思う。私の職場でも実は女性の中にかなり力のある人がいるということが認識されつつある。それを証明すべくしっかり働く女性の存在も大切だと思う。  
【女性 50歳代】
  
- ◆大網白里市のことではないのですが、私が今行っている就職活動を通して感じたことを書きたいと思います。ある企業の総合職の説明会に参加したところ、男性社員の方に、「この説明会は総合職向けですが、女性の方宜しかったですか？」と聞かれました。あたかも男性は総合職・女性は一般職と決められているようでショックでした。社会全体のあり方や人々の考え方を変えなければいけないと同時に企業自体の体制・考えも変えていかなければ男女が同じ地位・役割を持って生活するのは難しいのではと感じました。【女性 20歳代】
  
- ◆独身の時は、中央（大手町）でバリバリと仕事をこなしていても、子どもが生まれると育児で家庭に入り、キャリアを生かすことができない。保育施設等が充実して、半日も仕事につきキャリアを生かすことができると、ストレス解消にもなり、健康面、又社会の為にもプラスになると思う。女性も、子育ても大切だが、結婚しても働ける場があると、地域の為にもなると思う。【女性 60歳代】
  
- ◆結婚・出産後も働ける職場作りが必要、子育て・介護は女性だけに負担がかからない社会作りが必要だと思われます。【女性 60歳代】

### (3) 市の行う施策について

- ◆男女共同参画社会というテーマを、一自治体の中で取り組んでいくことは難しい。(制度・規則に依るものがあるため)。当テーマは大綱だけの問題でなく、日本国としての共通のテーマである。大綱でこのようなアンケートから、変革を起こそうとする動きは素晴らしい事と思う。ただ、上記の通り、一自治体でどこまで“何を”できるのか、は未知数であると思うので、是非この取組を、県、そして中央に展開(提案)し、国レベルでの議論に結びつけられるよう、進めていって頂きたい。【男性 30歳代】
  
- ◆千葉市のように病児保育を作ってほしい。病後児保育は何の意味もないと思う。「病気→呼び出し→早退→次の日休む」が続けば信頼もなくなり、職場の居心地も悪くなり会社としても使いにくくなるので。【女性 30歳代】
  
- ◆片手間では実現は難しいと思います。専門的な部門を設けて積極的に啓蒙活動をして、意識を高めて行かないと一方通行では成功は望めないと思います。【男性 70歳以上】
  
- ◆半年ほど前、保育所の申込に行った際、担当の方から「今ほどこもいっぱい厳しいと思います」の一言。今後保育施設は増えないのか聞いてみると、「増やしてもみんな預けて仕事しちゃうんでやっぱり厳しいと思いますし、今のところ増やす予定はありません」と言われました。子供を預けて仕事をしてはいけないのでしょうか。母親は子供の世話が仕事でしょ、と言われたような気持ちになりました。さまざまな理由であれ仕事をしたい女性・母親はいると思います。保育施設の充実を心から望みます。そして役所の方の対応ももう少し心ある対応をお願いしたいです。【女性 30歳代】
  
- ◆広報で「男女共同参画社会」実現を目指して行った取り組みを毎月載せてはいかがか。市の真剣さが伝われば少しは改善するのではないか。【女性 30歳代】
  
- ◆様々な分野における女性参画の「見える化」を推進して欲しい。空疎な“お役所仕事”にならないようひとり一人に現状と今後の希望について聞き取り調査をするくらいの真剣さを望みます。「男女共同参画」の実現で、現状と比べて何がどう変わり行政に地域社会がどう変化するのか(させたいのか)モデルとなる青写真(大綱白里モデル)を呈示してください。【女性 30歳代】
  
- ◆子育てについて言えば、土曜・日曜等パパが休みの日に父子で参加できるような親子運動や工作等を行ってくれるイベントがあるとママは息抜きや家事ができるし、パパも子どもと関わっていいと思う。【女性 30歳代】
  
- ◆このアンケート「男女共同参画計画」策定することにより、住民生活にどのような意味があるのか疑問です。もっとほかに税金を有効的に使う必要があるのではないのでしょうか。【女性 60歳代】

- ◆市民の意識の低い市では無理。女性の立場を上げ、平等にしたいなら市役所の職員を半分女性にして、中央から男女共同参画社会づくりをすべき。頭の固い男はクビにしてください。妊婦を市職員として雇ってください。乳幼児を抱える母親を市職員として雇ってください。臨時職員募集をかける際、「1日6～8時間働ける人」とか書かないでください。母親はそんなに働きません。まずは中央から意識を変えてください。立派なことばかり並べず、とにかく実行・実現させてください。【女性 40歳代】
  
- ◆だれでもが、必要な時に容易に相談等ができる窓口の設置が必要と思います。（例えば市役所に相談室を設ける）長い歴史の中で今日ほど男女共同参画社会の実現の機運が高まっているので、時間をかけて長く継続（体制）することが重要と考えます。男女共同参画社会の実現は、市民の生活に密着した市役所での各種の施策を行うことが必要であり、同時に市民に浸透させるための最高の機関であると考えます。必要なことは、市民に充分説明し、実現にむけて進めることが必要ではないか。男女共同参画社会の実現しを行う上で、学校教育で男女平等教育の思想定着にむけて、授業時間を設定して生徒に対して指導していくことが大切と考えます。【男性 70歳以上】
  
- ◆とくに戦前、戦中、戦後生まれの男性の方々に家事（簡単な掃除や炊事など）を気軽な気持ちでできるように、学べる場を作っていただければと思います。男尊女卑という思想は心の奥深くに潜んでいる方々も多いようです。（本人は気づかなくても、そのように幼少時に教育されてきた人たちがまだまだいるようです）私の友人もそのような感想を持つ方が多々います。もちろん女性の友人です。これから高齢化社会に向けて大切なことだと思うのですが。【女性 70歳以上】
  
- ◆女性が働かないと子どもに十分な教育を受けさせてあげられない状況だと思う。子育てしている家庭にはそれなりの手当て（仕事場からなども）をだしてほしい。そうすればもっと子どもを産みたい育てたいと思えると思う。駅前をもっと住みやすくしてほしい。道路が狭くて子どもを歩かせるのにあぶないと思う。必要な所から工事を進めてほしい。そういう意見をする場所に女性を参加させてほしい。そうすれば子育てしやすいと思う。【女性 30歳代】
  
- ◆女性が結婚・出産しても職場への復帰がしやすい企業や、女性の管理職を積極的に登用している企業を紹介して欲しいです。実際にその職場へ移るかどうかは別として何らかの記事等で女性が活躍して成果を上げている事が紹介されれば、モデルケースとして宣伝効果もあると思います。女性が働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい職場となると思います。【女性 20歳代】

#### (4) 家庭について

- ◆日本では、まだまだ家庭環境ができていません。男は、働くものと思われています。  
【男性 60 歳代】
  
- ◆昔に比べたら確かに男性が育児に参加しやすい世の中に変わったと思います。しかしそんな男性はとても珍しい存在のように思えます。私の主人は私が子供達が1才、3才から働き出しても基本的に家事・育児全て私の仕事です。出産しても主人は会社は休めないで協力はほぼ得られませんでした。そういう会社の体制も原因の1つかもしれませんが、それぞれの育った環境も理由の1つかもしれません。私の父親は私が5才の時に亡くなったので家庭に父がいるという環境がなかったのでどういう形が理想の夫婦像なのかわかりません。対して主人の父親は昔ながらの昭和なお父さんという感じで、主人から聞いた話では夫と子供の頃一緒に遊んだりという事はなかったようです。そういう事があったのか主人は子供と外で遊んだりという事は滅多にありません。そんな家庭で育ったせいから結婚してからあまり協力的ではなく家の事、子供の事はほぼ私がしています。確かに男女が平等になるような制度ももちろん必要ですが、育ってきた環境で根付いた価値観を変えることはなかなか難しいです。【女性 30 歳代】
  
- ◆私が幼少の頃よりは男女が差別なく、能力を発揮できる機会（場）があるように感じる。しかし、家庭内においては共働きなのに家事は当たり前のように妻の役目になっている。世間ではイクメンなんて言われ、外面はいいが、実際の負担は女のほう重いと思う。「男女共同参画社会」がどの程度市民に浸透・理解されているのか私も興味あります。子供たちが安心安全に育つ環境を作りたい。【女性 40 歳代】
  
- ◆実際のところ、男性の収入が上がれば女性は家事子育てに専念できる。なんだかんだ言っても母親が子供の育児を十分に行った方が子供は立派に育つと思っています。女性の社会進出はすばらしいとは思いますが、昨今の未成年者の悪質犯罪件数の増加を見ると女性の社会進出は必ずしもいいとは思えない部分もあります。「男女共同参画社会」を実現するには、女性が社会に進出することによる弊害を考慮し、対策を考えたほうが良いと思います。男性は、家族の為に必死で働き、女性は母として子供に全力で愛情を注ぐという昔ながらの関係も続けることもいいことだなと思います。【男性 40 歳代】
  
- ◆「家事・子育ては女の仕事」という考えがどうしてもぬけない。共働きでも、女が自分の仕事や家事育児をしていて、男は「手伝う」という感覚がぬけない。それはおかしいと言っても「みんなやっていない」と言われて、ストレスを抱えることになる。男性は、家事・育児の大変さを理解し「手伝う」のではなくあたり前に分担してやるという感覚を持ってほしい。行政は、そういうことを強く言ってほしい。啓発など、呼びかける程度では、「一部の人の考え」くらいにしか思われず、多くの人の考えを変えられないと思う。【女性 30 歳代】
  
- ◆子供も経済的に余裕があれば産むし、仕事も女がやらなくても良いと思う。平等、平等といっても、役割はあって、平等にはならないと思う。【女性 30 歳代】

- ◆夫婦ともに働くことは家庭に大きなプラスになることです。働ける場所があるのですから、両親、夫婦ともに協力する事がまず一番の問題です。次に職場、社会の手助けが必要だと思います。【女性 70歳以上】
- ◆年代によっても違うだろうが、家庭内の仕事はお金にならず、外で働いている男は、自分が養っている、時間がない等で上から目線で生活している。子どもの頃から子育て家庭内のあらゆる事に積極的に参加する教育をしなければいけないと思う。  
【女性 50歳代】
- ◆家事のおもしろさや重要性を知らない男性が案外多いように感じます。(男は仕事で家の事はやらない) 料理、洗濯、掃除など楽しさが判らないようです。包丁なども握ったこともない人もいます。女性とコミュニケーションができない人もいます。  
【男性 60歳代】
- ◆家事を女性のやることと決めつけて協力する気のない男性が多いと感じます。男女共同参画社会を実現していくには男性の考え方を変えなければならないと思います。  
【女性 20歳代】
- ◆「男女共同参画」という言葉はかなり前から言われているが、あまり実現していない様に思います。家事労働し社会での仕事を持ち、子供を育てるという大変な時間のかかること、現在は昔と違ってどこも各家族の中より増して母親の大変さがわかる。特にパートナーの協力がなくては良い子供には育たないのでは。男性の意識を変えなくては。女性が仕事と育児(家事)でどの女性もヘトヘトなのではないか。その男性を育ててしまった親の責任もある。出産しなくなったのは、この辺にも原因が大きいのではないか。いくら制度を見直しても家庭内での協力体制が大きい。今後男女共に教育の問題を考える。制度でも使えない制度ではなくて、「きまっているから」でなく、その人その人に合わせた柔軟な対応をお願いしたい。心あるセーフティーネットをお願いしたい。  
【性別不詳 70歳以上】
- ◆これまで女性が家事・育児と仕事の両立ができるように制度が設けられてきたが、元々男性の仕事の加重がかかっていること、またこの制度によりさらに男性への圧力が高くなっている側面もある。共同参画の為には男性の時間を空ける取り組みや制度の整備が必要だと思います。【男性 50歳代】
- ◆結婚そのものに魅力を感じてない若者が増えているように思います。女性の側からは旦那の世話をし、子どもを産んで育ててどうしても負担が大きい立場になるしもちろん喜びもいっぱいあるけれど・・・そんなかけがえのない子どもを持つ事を最初から大変なことと遠ざけている節が見えます。子どもを産み育てるなんてとってもステキなことなのに子どもを育てながら自分も育てられ人として成長できるのに。  
【女性 60歳代】

### Ⅲ 調査票

# 大網白里市男女共同参画に関する市民意識調査

## 男女共同参画社会とは

男性も女性もすべての個人が、互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。



### <ご協力のお願ひ>

日頃から市制にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

大網白里市では、男女が互いに尊重し、その個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現に向け、「大網白里市男女共同参画計画」を策定する予定です。

そこで、計画の策定と今後の施策の基礎資料とするため、市民意識調査を実施することといたしました。

本調査は、20歳以上の市民の中から無作為抽出によって選ばせていただいた皆様に調査票をお送りしております。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成27年6月

大網白里市長 金 坂 昌 典

### 【ご記入にあたってのお願い】

- 回答は、あて名のご本人がお答えください。事情によりご本人が回答できない場合は、ご家族の方がお答えください。
- 質問ごとにあてはまる回答の番号を○で囲んでください。
- ○をつける数は、質問ごとに指定していますので、その範囲でご記入ください。
- 回答していただく方が限られる質問もありますので、質問の注意書きをご確認ください。
- 回答が「その他」の場合は、( )内に具体的にその内容を記入してください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**7月17日(金)**までに郵便ポストにご投函ください。(切手不要)

※本調査は、無記名で行い、調査結果は統計的に処理し、個人の名前が公表されることはありません。また、調査の目的以外には一切使用いたしません。

#### <問合せ先>

大網白里市 地域づくり課 市民協働推進班

TEL 0475-70-0342

FAX 0475-72-8454

**【あなたご自身のことについてお伺いします】**

①性 別	1. 男性                      2. 女性	
②年 代 (5 月末の 年代をお答 えください)	1. 20 歳代	2. 30 歳代                      3. 40 歳代
	4. 50 歳代	5. 60 歳代                      6. 70 歳以上
③居住地区	1. 瑞穂地区	永田、小中、萱野、砂田、神房、経田、駒込、ながた野、 みずほ台、みやこ野
	2. 山辺地区	金谷郷、餅木、大竹、南玉、池田、季美の森南
	3. 大網地区	大網、仏島、みどりが丘、小西、養安寺、山口
	4. 増穂地区	富田、南横川、北横川、北飯塚、南飯塚、星谷、柿餅、柳橋、 上貝塚、清名幸谷、木崎、柿餅上貝塚入会地、上谷新田
	5. 白里地区	南今泉、北今泉、細草、四天木、四天木甲、四天木乙、北吉田、 桂山、九十根、長国、下ヶ傍示、二之袋、清水
④世帯構成	1. 単身 (あなた 1 人)                      2. 夫婦のみ                      3. 2 世代家族 (子供と)	
	4. 2 世代家族 (親と)                      5. 3 世代家族                      6. その他 (                      )	
⑤職 業	1. 会社員・会社役員	2. 自営業・自由業                      3. パート・アルバイト
	4. 公務員・教職員・団体職員	5. 農林水産業                      6. 学生
	7. 家事専業 (主婦・主夫)	8. 無職                      9. その他 (                      )

**【男女平等に関する意識についてお伺いします】**

問 1 現在の社会において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つつ)

項 目	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと いえば男性 の方が優遇 されている	平等になっ ている	どちらかと いえば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない
①家庭生活で	1	2	3	4	5	6
②地域で	1	2	3	4	5	6
③社会通念・慣習で	1	2	3	4	5	6
④学校教育で	1	2	3	4	5	6
⑤職場で	1	2	3	4	5	6
⑥政治で	1	2	3	4	5	6
⑦法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体で	1	2	3	4	5	6



**【男女の役割分担についてお伺いします】**

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

1	2	3	4
1  思う	2  思わない	3  どちらともいえない	4  わからない

問3 結婚(事実婚含む)されている方にお聞きします。

あなたの家庭では、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

(○はそれぞれ1つつ)

項目	夫	妻	家族で 分担	その他の 人(男性)	その他の 人(女性)	該当 しない
① 家計管理						
② 食事の支度						
③ 食事のあとかたづけ						
④ 食料品・日用品の買物						
⑤ 洗濯						
⑥ 掃除						
⑦ 簡単な家の修繕						
⑧ ごみ出し						
⑨ 子どものしつけや家庭教育						
⑩ 家族の介護						
⑪ 地域行事等への参加						

**【仕事についてお伺いします】**

問4 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思えますか。

(○は3つまで)

1	女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと
2	長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと
3	職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと
4	保育施設や保育制度が不十分なこと
5	家族の理解が得られないこと
6	子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされていること
7	仕事と家事の両立がむずかしいこと
8	特にない
9	その他 ( )

**問5 雇用の場への女性の進出が進む中で、女性の働きやすい環境をつくるため、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)**

- |                              |
|------------------------------|
| 1 再雇用制度の促進                   |
| 2 保育施設や保育サービスの充実             |
| 3 産後休暇や育児休業明けの保育体制の充実        |
| 4 育児休業制度の定着促進                |
| 5 介護、看護との両立を支援する制度の整備        |
| 6 昇進、昇給や仕事の分担など労働の場での男女平等の促進 |
| 7 男性の家庭生活（家事・育児・介護等）への参加促進   |
| 8 家事の省力化、外部化などによる家事負担の軽減     |
| 9 その他（ )                     |

**問6 女性の働き方について、次のどれが望ましいと思いますか。(○は1つ)**

- |  |
|--|
| 1 結婚や出産等にかかわらず、ずっと仕事をもつ                |
| 2 子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける  |
| 3 子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける |
| 4 結婚するまで仕事もち、結婚後は仕事につかない               |
| 5 子どもができるまで仕事もち、その後は仕事につかない            |
| 6 仕事はもたない                              |
| 7 その他（ )                               |

**問7 現在、仕事をしている方にお聞きします。**

**あなたの職場では、有給休暇や育児休業などをとりやすい環境にありますか。**

**(○はそれぞれ1つずつ)**

項目	取りやすい	どちらかといえ取りやすい	どちらかといえ取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
① 有給休暇	1	2	3	4	5	6	7
② 育児休業	1	2	3	4	5	6	7
③ 介護休業	1	2	3	4	5	6	7

**問8 現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。**

**あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(○は1つ)**

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 取りたい          | 2 どちらかといえ取りたい |
| 3 どちらかといえ取りたくない | 4 取りたくない      |
| 5 どちらともいえない     | 6 わからない       |

## 【女性の社会参加についてお伺いします】

問9 職場や地域活動で、女性のリーダーが少ないようですが、その要因は何だと思えますか。

(○は2つまで)

- 1 責任ある地位につきたくないから
- 2 家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから
- 3 組織活動の経験が少ないから
- 4 指導力のある女性が少ないから
- 5 女性がリーダーでは女性がついてこないから
- 6 女性がリーダーでは男性がついてこないから
- 7 女性がリーダーでは軽くみられるから
- 8 男性がリーダーとなるのが社会慣行だから
- 9 その他 ( )

問10 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で、女性が指導的地位に占める割合が増える方がよいと思えますか。(○は1つ)

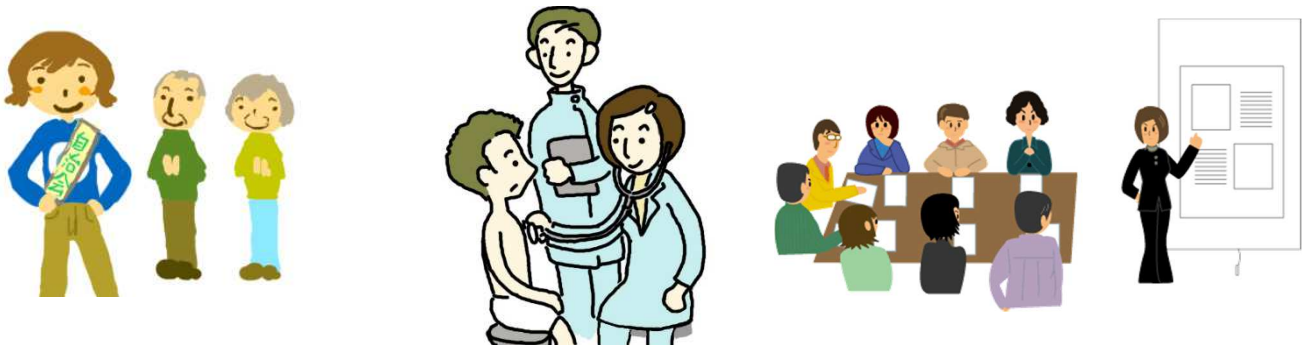
- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 よいと思う     | 2 よいと思わない |
| 3 どちらともいえない | 4 わからない   |

問11 問10で1と回答した方のみお答えください。

次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。

(○は3つまで)

- |                                |                   |
|--------------------------------|-------------------|
| 1 国会議員                         | 2 県議会議員、市町村議会議員   |
| 3 県知事、市町村長                     | 4 国家公務員・地方公務員の管理職 |
| 5 裁判官、検察官、弁護士                  | 6 医師              |
| 7 大学・研究機関などの研究者                | 8 学校の校長・教頭        |
| 9 企業の管理職                       | 10 企業家・経営者        |
| 11 地域活動団体の役員 (区・自治会長、PTA 会長など) |                   |
| 12 その他 ( )                     |                   |



問12 これまで男性は、比較的家事、育児、介護等への参加が少なかったと言われていますが、男性の参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

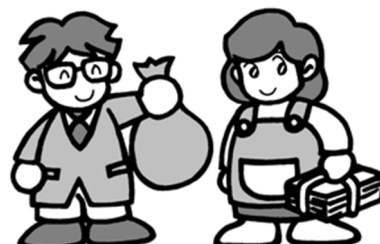
- 1 男性の家事、育児介護等への参加を促進するための啓発活動を行う
- 2 男性の労働時間を短くして家事、育児介護等への参加できる時間を増やす
- 3 仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する
- 4 企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する
- 5 男性の家事・育児・介護等に関する技能を高めるような講座等を開催する
- 6 その他 ( )

問13 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化することに期待しますか。(〇は1つ)

- 1 政治が身近になる
- 2 男性中心の考え方に変化が生じる
- 3 男女共同参画社会に向けての施策が推進される
- 4 行政に対する要望等がきめ細かくなる
- 5 何も期待しない
- 6 その他 ( )

問14 男女がともにあらゆる場面(仕事、家事、育児、介護、地域活動など)に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
- 2 職場中心という社会全体の仕組みを改めること
- 3 仕事と家庭の両立などの問題について、相談できる窓口を設けること
- 4 育児・介護に関するサービスを充実すること
- 5 労働時間短縮や休暇制度(育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等)を普及させること
- 6 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
- 7 男児・女児にかかわらず、家事などができるようなしつけや育て方をすること
- 8 女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること
- 9 男性が生活面において、自立できるような能力を身につけること
- 10 職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること
- 11 その他 ( )



**【男女共同参画関係用語についてお伺いします】**

問15 あなたは、次の言葉を知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

項目	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない
① 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
③ 女子差別撤廃条約	1	2	3	4
④ ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	1	2	3	4
⑤ セクハラ（セクシャル・ハラスメント）	1	2	3	4
⑥ マタハラ（マタニティ・ハラスメント）	1	2	3	4
⑦ DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3	4
⑧ ポジティブアクション（積極的改善措置）	1	2	3	4
⑨ デートDV	1	2	3	4
⑩ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
⑪ 家族経営協定	1	2	3	4

●ここから男女間における暴力に関してお伺いします

【配偶者やパートナーからの暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）についてお伺いします】

問16 あなたは、DV（夫婦、パートナーなどの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること）を経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1 暴力を受けたことがある   | 2 身近な人から相談を受けたことがある |
| 3 身近で見聞きしたことがある | 4 暴力を受けたことがない       |
| 5 身近で見聞きしたことがない | 6 その他（ ）            |



問17 問16で1と回答した方のみお答えください。

これまでに暴力を受けたことについて、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

- |                              |
|------------------------------|
| 1 どこ（だれ）にも相談しなかった            |
| 2 警察に連絡・相談した                 |
| 3 公的な相談窓口や電話相談に相談した          |
| 4 民間の機関（弁護士、医師、カウンセラー等）に相談した |
| 5 家族に相談した                    |
| 6 友人・知人に相談した                 |
| 7 その他（ ）                     |

問18 問17で1と回答した方のみお答えください。

相談しなかった理由はなぜですか。（○は3つまで）

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから  |
| 2 相談しても無駄だと思ったから                 |
| 3 自分にも悪いところがあると思ったから             |
| 4 相談するほどのことではないと思ったから            |
| 5 他人に知られたくないと思ったから（世間体が悪いと思ったから） |
| 6 暴力を受けたことを思い出したくなかったから          |
| 7 相談したことがわかると、さらに暴力を受けると思ったから    |
| 8 どこ（だれ）に相談したらいいのかわからなかったから      |
| 9 その他（ ）                         |

問19 DVについて、今後、行政に対してどのような対応等を望みますか。(○は3つまで)

- 1 警察による対応の充実
- 2 緊急一時避難所（シェルター）の確保
- 3 相談体制の連携充実
- 4 相談機関等の周知、紹介
- 5 被害者の自立のための支援
- 6 加害者の更生のための支援
- 7 DV防止の意識啓発（講演会、広報紙等による啓発）
- 8 学校教育におけるDV防止に関する教育の充実
- 9 その他（ )

【ストーカー（特定の異性からの執拗なつきまとい等）行為についてお伺いします】

問20 あなたはこれまでに、ストーカー行為（つきまとい、電話、メール等）の被害にあったことがありますか。(○は1つ)

- 1 あった
- 2 ない
- 3 わからない

問21 問20で1と回答した方のみお答えください。

これまでに受けたストーカー行為について、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1 どこ（だれ）にも相談しなかった
- 2 警察に連絡・相談した
- 3 公的な相談窓口や電話相談に相談した
- 4 民間の機関（弁護士、医師、カウンセラー等）に相談した
- 5 家族に相談した
- 6 友人・知人に相談した
- 7 その他（ )



## 【少子化対策についてお伺いします】

問22 出生率が低くなった主な要因として何が考えられると思いますか。(〇は3つまで)

- 1 男女とも結婚・子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから
- 2 女性の社会進出が進み、子育てよりも仕事に生きがいを見出す女性が増えたから
- 3 結婚年齢が高くなったから
- 4 出産・子育ては経済的に負担があるから
- 5 子どもは少なく生んで、十分に手をかけて育てる人が増えたから
- 6 労働環境等を含め、仕事と子育てを両立させる社会的な仕組みが整っていないから
- 7 出産後の職場復帰がむずかしいから
- 8 住宅や遊び場など、子育てに望ましい住環境が整備されていないから
- 9 必要な時に利用できる子育て支援サービスが整っていないから
- 10 地域での付き合いが減り、身近で子育てを支えてくれる人がなくなったから
- 11 地球環境や社会の動向に対して、漠然とした不安を感じる人が増えたから
- 12 出産・子育てに対するパートナーの理解・協力が得られないから
- 13 様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増えたから
- 14 その他 ( )

問23 出生率を上げるために行政が推進すべき施策として何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 保育施設・内容の充実(保育時間延長、一時保育、病後児保育等)
- 2 自宅に子育て支援者を派遣する子育てヘルパーサービスの実施
- 3 出産手当や児童手当の増額
- 4 子どもが安心して遊べる場づくり
- 5 地域の子育てに関するネットワークづくり
- 6 出産・子育ての相談窓口の整備
- 7 柔軟な勤務体制導入の推進
- 8 育児休業を取りやすい職場環境づくりを推進
- 9 男性の家事や育児への参加促進啓発
- 10 その他 ( )





**【男女共同参画社会実現に向けての取組みについてお伺いします】**

問 2 4 「男女共同参画社会」を実現するために、市の施策に望むことは何ですか。(○は3つまで)

<ol style="list-style-type: none"><li>1 講演会や広報紙などによる男女共同参画についての啓発</li><li>2 学校教育などにおける男女平等教育の推進</li><li>3 DV、ストーカー行為根絶に向けた取組み</li><li>4 職場における男女格差の是正や労働環境の改善</li><li>5 育児・介護休業制度の普及促進</li><li>6 育児・保育事業の充実</li><li>7 職業訓練、職業相談の充実</li><li>8 健診体制や健康相談など健康に関する事業の充実</li><li>9 地域コミュニティー活動における男女共同参画の推進</li><li>10 各種審議会等の委員への女性の登用</li><li>11 女性リーダーの養成</li><li>12 男女共同参画推進を専門に担当する課の設置</li><li>13 男女共同参画に関する条例の制定</li><li>14 その他 ( )</li></ol>
---

問 2 5 「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、感じていることなど、なんでも結構ですので自由に記入してください

--

質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

この調査票を同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。(切手不要)